





SUPERBIKE
JAPAN

SUZUKA SUPER BIKE 200km

'96MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 鈴鹿スーパーバイク200km



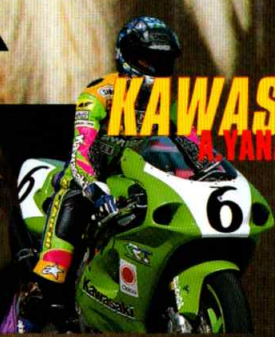

HONDA
TAKAGI

YAMAHA
FUJIWARA




SUZUKI
FUJIWARA

KAWASAKI
YANAGAWA

6/8 予選 **SAT.** **9** 決勝 **SUN**

RACE START
GP125 10:30
GP250 11:50

SUPER BIKE 14:00
NK4-II 16:15



美しいだけがツールではない

見た目に美しいツールはいろいろある。

しかしその真価は外見だけではわからない。

特に現代のマシンに不可欠なデリケートな整備作業には、
それにふさわしいものが必要だ。

今、ハンドツールの頂点として、その仕上げや耐久性はもちろんのこと、
とことんまで手への感触にこだわり、

繊細な作業に見事に応える扱い易さをカタチにした

新しいシリーズが完成した。

プロの要求に応える圧倒的なクオリティは、

大きなつかい手のために作られた他のツールたちを完全に凌駕する。

nepros = NEW PROFESSIONAL SATISFACTION

その名はネプロス。

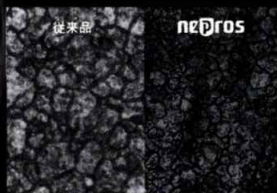
新登場

nepros

MIRROR 5GQ・KTC



9.5sq. Socket Wrench/ 9.5sq. Deep Socket Wrench/ 9.5sq. Union Ratchet Handle/ 9.5sq. Spinner Handle/ 9.5sq. Extension Bar/ 9.5sq. Quick Spinner/ 9.5sq. Universal Joint/ 9.5sq. Spark Plug Wrench/ 45° Offset Wrench/ Flat Type Short Boxend Wrench/ Open End Wrench/ Combination Wrench/ Heavy Duty Diagonal Plier/ Long Nose Plier/ Angle Nose Plier/ Plier/ Adjustable Wrench/ Screw Driver/ Stubby Screw Driver



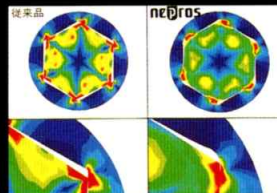
抜群の強靭さと耐久性

KTCだけのオリジナル素材5GQを大手特殊鋼メーカーと共同開発。一般規格鋼材では不可能な高強度と耐久性を実現。



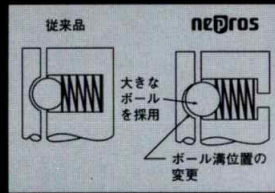
超コンパクト

口径側の対角寸法を極限まで小さくし、高度な塑性加工技術を駆使して同時に軽量化。狭い場所での作業性を格段に向上。



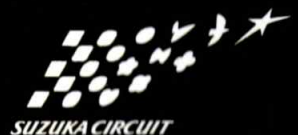
Nハワーフィット

許容加工公差を厳しく設定することでホルト・ナットとの嵌合キャップを極限まで縮小。なおかつ、接触面を拡大する最適化設計をおこないトルク伝達効率を飛躍的にアップ。



フィット感に優れた操作性

例えば駆動工具との接合時にカタつきを最小となるようボール溝位置/サイズを再検討。またラチェットの送り角を見直すなどさまざまな工夫を盛り込んだ。



SUZUKA CIRCUIT OFFICIAL TOOLS
あの鈴鹿サーキットがネプロスをオフィシャルツールとして認定。パトックでのツールサービス&メカニックサポートも開始する。

KTC 京都機械工具株式会社
〒613 京都府久世郡久御山町佐山新開地128番地
Tel. 0774 46-3700 代 Fax 0774 46-3734

支店/東京03 3752 2261/名古屋052 882 6671/近畿0774 46 3711
営業所/札幌011 824 0765/仙台022 231 6322/関東048 854 3213/金沢0762 91 4546/広島082 273 0202/福岡092 441 5637
駐在所/四国0878 74 7288

ネプロス専用お問い合わせ窓口：TEL (0774)46-3716

未成年者の喫煙は禁じられています
あなたの健康を損なうおそれがありますので
吸いすぎに注意しましょう



BOX NUMBER



スーパーマイルド NUMBER

タール11mg/ニコチン0.8mg

タール6mg/ニコチン0.5mg

AN AMERICAN ORIGINAL.

LUCKY STRIKE

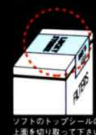
ラッキーストライク 総計21,300名様に当たります。 スモーカーズ・コレクション・プレゼント

■期間：1996年4月15日(月)～7月15日(月) ■賞品：特賞/限定スターリングシルバー・ジッポー(シリアルナンバー入り/No.001～300)(300名様)、A賞/ブラック・レザー・ジッポー(9,000名様)、B賞/レザーホルダー付・ポータブル・アッシュトレイ(12,000名様)をプレゼント ■対象銘柄：日本国内で販売されているラッキーストライク全銘柄 ■応募方法：ラッキーストライク全銘柄の指定部分を切り取って、応募ハガキまたは、官製ハガキに6枚貼り、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、性別、職業、電話番号と現在お吸いのタバコ銘柄(抽選には一切影響ありません)、をご記入の上ご応募下さい ■宛先：〒119-65 東京中央郵便局留「ラッキーストライク

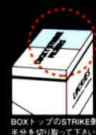
・スモーカーズ・コレクション・プレゼント M係(賞品の指定は出来ませんのでご了承ください) ※ハガキ1枚を1口とし、お一人様何口でもご応募できます ■応募資格：満20歳以上でタバコをお吸いの方に限らせていただきます ■応募締め切り：1996年7月15日(月)必着 ■抽選発表：発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます 賞品の発送は8月中旬になります(賞品は実際と異なる場合がありますのでご了承ください) ■問い合わせ先：ラッキーストライク・スモーカーズ・コレクション・プレゼント事務局

TEL 03-3811-1108

下図のように、パッケージの指定部分を切り取って、応募ハガキ、または、官製ハガキにお貼りください。



郵便はがき
50円
切手



あなたが現在お吸いのタバコ銘柄を
お書きください。
●郵便番号、●住所
●氏名(ふりがな)
●年齢
●性別、●職業
●電話番号

1	2
3	4
5	6



特賞

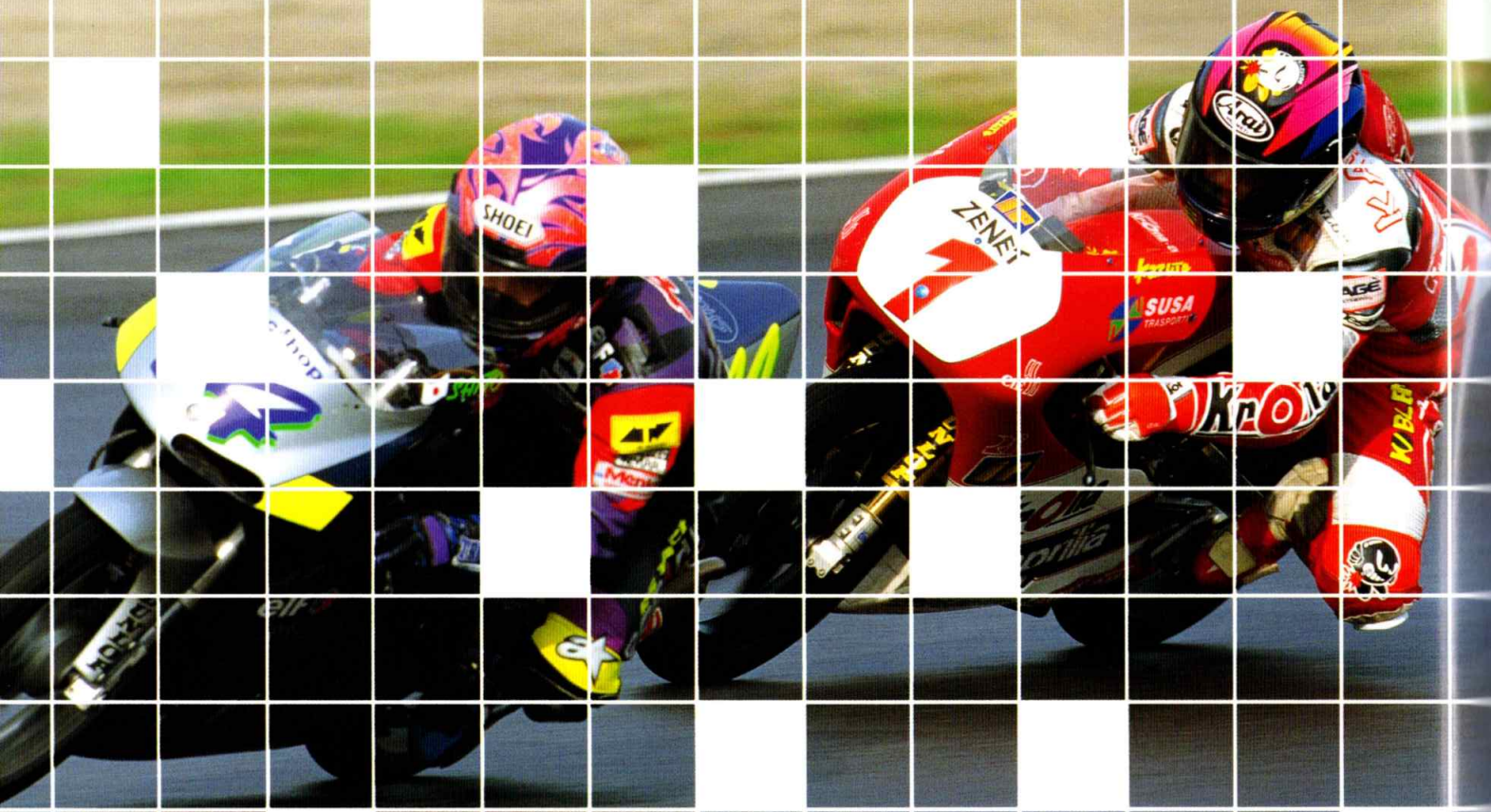
限定スターリング
シルバー・ジッポー
(シリアルナンバー入り)



A賞
ブラック
レザー・ジッポー

B賞
レザーホルダー付
ポータブル
アッシュトレイ

情報満載!!ホット・バイクマガジン



まるちバイクマガジン

モトチャンク

毎月
6日発売
300円
(税込)
〒156

USEDバイク情報誌

ちやんぷゆー
champ

バイク探しならおまかせっ!

毎月
14日発売
280円
(税込)
〒180

株式会社 三栄書房 (販売部)

〒169 東京都新宿区北新宿4-8-16 TEL03-3364-3812 FAX03-3368-1733

※書店に品切れの節は送料を添えて(同額の切手代用可)販売部宛に直接ご注文ください。





Agip
motor oils



いつも
アジップがいる

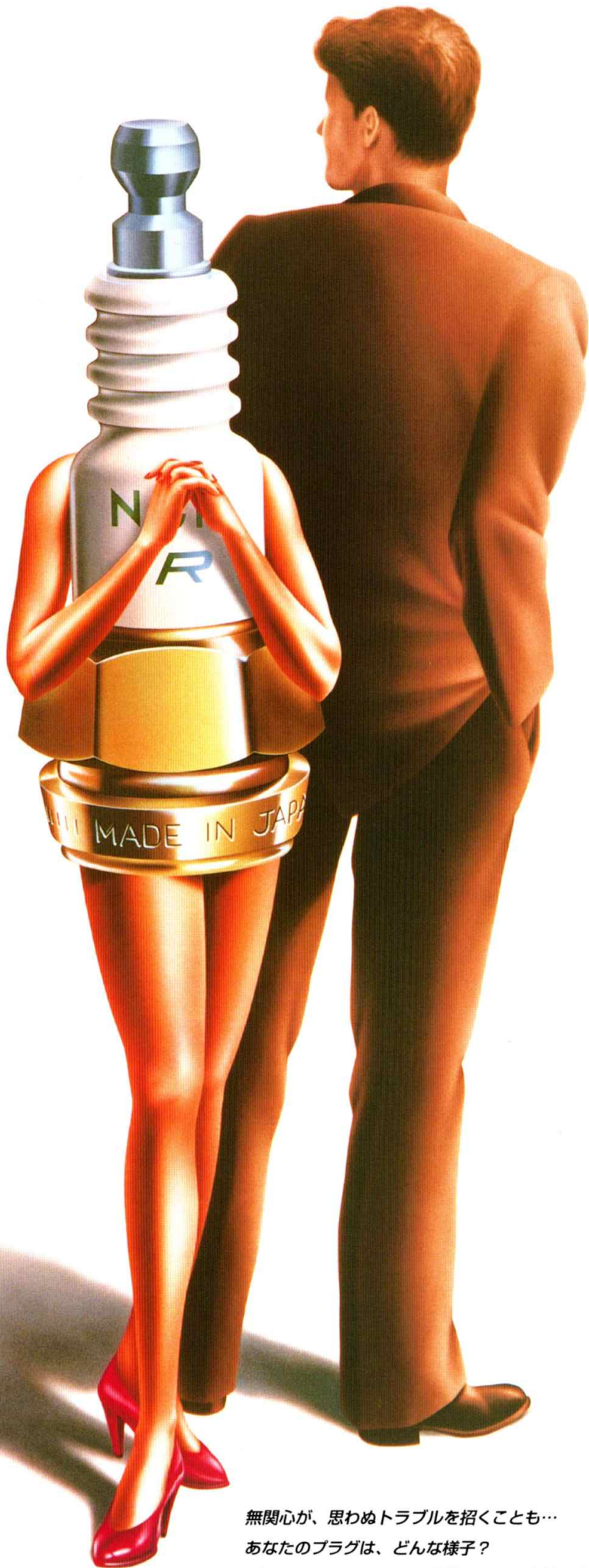


SHOWA BOEKI CO., LTD.

18-27, EDOBORI 1-CHOME, NISHI-KU, OSAKA, 550 JAPAN
PHONE: (06)441-8121 FAX: (06)444-6060



もっとう、
気にして
ほしい。



無関心が、思わぬトラブルを招くことも…

あなたのプラグは、どんな様子？

愛するクルマのために、整備の際には点検を忘れずに。



日本特殊陶業

ÖHLINS

ADVANCED SUSPENSION TECHNOLOGY



レーシングサービスの本質。

ブリックこと阿部典史選手の優勝で大きな話題を呼んだ世界GP第3戦(マールボログランプリオブジャパン)。日本人選手の500cc優勝はオーリンズが1981年から、このレースに関わって以来の大きな成果でもあります。ご存知のように世界GPにおけるオーリンズユーザーの高い占有(500cc: 62.9%、250cc: 32%、125cc: 53%—1996年第1戦時)はオーリンズがサスペンションを通じて実に多くの貴重なデータをも得ていることを証明しております。オーリンズのレーシングサービスチームが行う仕事は、対象チームのセッティングから開発及びマーケティングまで多岐にわたっています。日進月歩の進化が求められるレース界にあって深い知識と正確な判断力、さらには様々な情報収集能力が求められています。レースにいちむライダーに対し常にベストコンディションを用意し、献身的で情熱的インテリジェント集団...それがオーリンズレーシングサービスチームです。サーキットからストリートまで、オーリンズのプロダクツコンセプトが生きています。



●OHLSINS DOCUMENTS
96年4月21日鈴鹿、世界GP第3戦、オーリンズ本社からGP担当の2人と地元、日本から塚本氏と伊藤氏が合流して万々のサポート態勢が用意された。全曜日予選第1日目はあいにくの雨、500cc、250ccの全クラスにおけるトップチームのマンのサステイニングは特に14年ぶりのGP 200ccクラス優勝を果した阿部選手にはレーシングスタッフ全員も喜びを味わった。ちなみに、日本のマーケットを大々する塚本、伊藤の名はこの結果に自信をつけ、貴重なノウハウをゲテナスやモデファイ等のお問合わせを通じて皆様にあますとろくお伝えするであろうと期待下さい。

フルアジャスタブル・ツインショック ¥118,000

●ガス室とオイルを隔離するフリーピストンにより、キャビテーション(泡立ち)、エアレーション(空気吹込み)を防ぐと共に高い冷却性能を誇る。●圧側減衰力調節機構<4段階>●伸側減衰力調整機構<2段階>●全長無段階調節機構<+10mm>●油圧スプリングプリロードアジャスター<10mm行程>

適応車種:ゼファー1100/ZI、ゼファー400/Z400、ZRX400、CB1000SF(BIGI)、CB900/1100F、CB400SF、XJR1200、V-MAX、XJR400、GSX1100Sカタナ

作業工賃価格

●オーバーホール/仕様変更
リアショック ¥24,000
スプリング交換 ¥2,000
O/H時無料
備考:スプリング代は別途
※ツインショックのそれぞれの工賃は、1台分(2本)の料金です。



オーリンズのお求めは、この看板のオーリンズプロショップで。

●表示の価格は消費税および取り付け工賃を含まない1台分セットです。●価格および仕様は改良のため予告なく変更する場合があります。●カタログをご希望の方はご希望の誌名・号数・ご希望の車種を明記し、500円切手を同封してラボ・カロツェリアまでお申込みください。●オーリンズ発売元・株式会社カロツェリア・ジャパン

商品に関するお問い合わせ、ご注文は
お客様フリーダイヤル
0120-81-1113

オーリンズに関するお問い合わせは、

ラボ・カロツェリア
〒336 埼玉県和光市 8-23-13
TEL 048-863-8011 FAX 048-863-802

公示 ANNOUNCEMENT

本競技会は財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)公認のもとに国際スポーツ憲章・競技規則に基づいたMFJ国内競技規則ならびに本競技会大会特別規則に基づいて開催される。

This event, authorized by M.F.J., Motorcycle Federation of Japan, will be held in accordance with M.F.J. national race regulations based on the International Sporting Code.

開催競技会 EVENT

名称 '96MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦
鈴鹿スーパーバイク200km

●同日開催 鈴鹿選手権シリーズ第6戦
NK4 SUZUKA

日程 1996年6月8日(土)・9日(日)

主催 株式会社 鈴鹿サーキットランド

会場 鈴鹿サーキット フルコース(5.86403km)

Event: '96 MFJ All Japan Road Race Championship Series Round 4
SUZUKA SUPER BIKE 200 km

●Supporting Race: Suzuka Championship Series ROUND 6
NK4 SUZUKA

Date: June 8, 9, 1996

Organizer: Suzuka Circuitland Co., Ltd.

Place: Suzuka Circuit International Racing Course 5.86403km

ご協賛各社 SPONSORS

- | | |
|------------------|--------------|
| 株式会社 アライヘルメット | 株式会社 ダブルエム |
| 株式会社 カロツツエリアジャパン | 株式会社 永谷園 |
| 京都機械工具 株式会社 | 日本特殊陶業 株式会社 |
| 株式会社 三栄書房 | 株式会社 ニューズ出版 |
| 株式会社 山海堂 | 株式会社 ブリヂストーン |
| 株式会社 三推社 | モーターマガジン社 |
| 昭和貿易 株式会社 | ラッキーストライク |
| 住友ゴム工業 株式会社 | (五十音順) |

目次 CONTENTS

ご協賛各社/タイムテーブル/レギュレーション抜粋/大会組織 — 8

鈴鹿スーパーバイク200kmの見どころ — 10

スーパーバイクライダー、注目の4人が語る「ぼくらのヒーロー」 — 16

エントリーリスト — 22

GP250レースの見どころ — 34

GP125レースの見どころ — 38

NK4 SUZUKAレースの見どころ — 42

'96鈴鹿サーキットクイーン決定 — 43

ぼくらの夏祭り「コカ・コーラ」鈴鹿8耐 — 44

コースガイド — 46

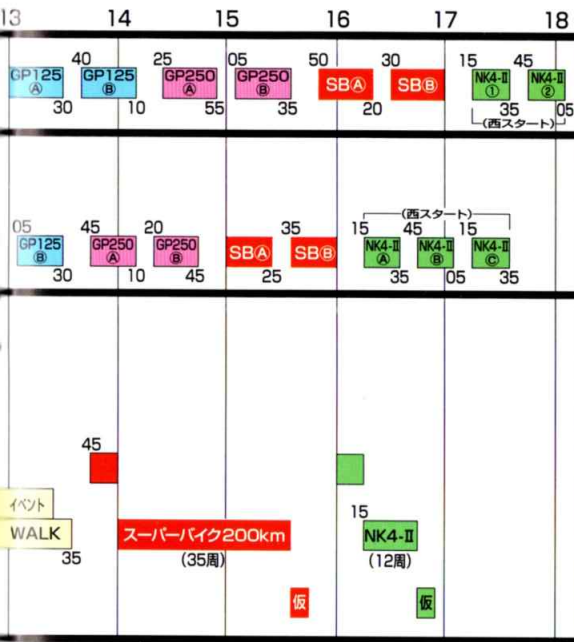
タイムテーブル TIMETABLE

	7	8	9	10	11	12
6/7(金) ●特別スポーツ走行 Free Practice (Untimed)		40 GP125 (A)	25 GP125 (B)	05 GP250 (A)	50 GP250 (B)	30 SB (A) SB (B)
6/8(土)公式予選 ●ゲートオープン Gate Open ●公式予選 Qualifying Practice	7:30	35 GP125 (A) GP125 (B)	15 GP250 (A) GP250 (B)	30 SB (A) SB (B)	05 SB (A) SB (B)	30 GP125 (A) 55
6/9(日)決勝レース ●ゲートオープン Gate Open ●ウォームアップ走行 Warm Up ●スタート進行 Starting Procedure ●決勝レース Races ●仮表彰 Provisional Award Presentation	8:00	40 GP125 (A) GP125 (B)	10 GP250 (A) GP250 (B)	15 SB (A) SB (B)	30 GP125 (15周)	35 GP250 (17周) 40 スタート

大会組織 OFFICIALS

大会会長 President	星島 浩 Hiroshi Hoshijima	大会競技役員 Officials of the Base	競技監督 Clerk of the Course	和田 将宏 Masahiro Wada
大会顧問 Adviser	藤井 璋美 Teruyoshi Fujii	副競技監督 Assistant Clerk of the Course	橋井 良司 Ryōji Tarui	
大会顧問 Adviser	福永 頌 Hiroshi Fukunaga	コース委員長 Chief Course Marshal	橋口 賢 Ken Hashiguchi	
大会顧問 Adviser	木村 吉次 Yoshitsugu Kimura	副コース委員長 Assistant Chief Course Marshal	坪井 清貴 Kiyotaka Tsuboi	
大会組織委員会 Organizing Committee	組織委員長 President	副コース委員長 Assistant Chief Course Marshal	田村 圭二 Keiji Tamura	
組織委員長 President	内田 亨 Tōru Uchida	車検長 Chief Technical Steward	加藤 慶一 Keiichi Katō	
組織委員 Member	橋井 良司 Ryōji Tarui	副車検長 Assistant Chief Technical Steward	上原 隆春 Takaharu Uehara	
組織委員 Member	三原 哲夫 Tetsuo Mihara	補給監査委員長 Chief Pit Inspector	神谷 和潤 Kazumasu Mitani	
大会審査委員会 Jury of the Meeting	審査委員長 President	副補給監査委員長 Assistant Chief Pit Inspector	永橋 晃 Akira Nagahashi	
審査委員長 President	杉本 五十洋 Isoyo Sugimoto	計時委員長 Chief Time Keeper	早川 勉 Tsumoto Hayakawa	
審査委員 Member	近藤 幾夫 Ikuo Kondō	副計時委員長 Assistant Chief Time Keeper	津村 義則 Yoshinori Tsumura	
審査委員 Member	館 正信 Masanobu Tachi	進行委員長 Paddock Director	鈴木 証二 Shōji Suzuki	
		副進行委員長 Assistant Paddock Director	加藤 龍志 Tatsushi Katō	
		ピットパドック管理委員長 Pit-Paddock Controller	内田 修一 Shūichi Uchida	

レギュレーション抜粋 SUPPLEMENTARY REGULATIONS



第1章 共通事項

第14条 公式予選

- ～1) 公式予選の義務周回数は定めない。ただし、少なくとも1周はラップタイムが計測されなければならない。
- ～2) 決勝レース出場台数は下記のように定める。全コースレース…48台 (全日本選手権のみ44台)

第16条 スタート

- ～1) スタートイングリッド
 - ①全コースレース
 - 最前列は4台とし、以下各列同数で配列される。ポールポジションは左側とする。
 - *全コースレースにおいては階段状グリッドを使用するものとする。
- ～2) 決勝レースのスタート方法はエンジンスタートによるクラッチスタートとする。
- ～5) グリッド上でのタイヤウォーマーの使用は禁止される。(余熱による保温は許される。)

第17条 レース終了

- ～1) トップが各クラス定められた周回を終了した時点でトップにチェッカーが振られる。
- ～2) 各レースの終了は、チェッカー旗によりトップ走者がゴールしたのち5分を経過した時である。

第35条 レース中における燃料補給

- ～1) スーパーバイククラスは、決勝レース中の燃料補給を行うことができる。
- ～2) 燃料補給とは補給装置を燃料タンクに接続した状態を指す。
- ～3) 燃料タンクは24ℓ以下とする。
- ～4) レース中の車両への燃料補給は一般市販の金属製携行缶が落差式タンクからの補給方法でおこなうこと。ただし、ピットロードよりタンク上面までの高さは2.5mまでとし、それ以上は上げなければならない。
- ～7) 燃料補給中はエンジンを停止しなければならない。
- ～9) 燃料補給は、スタンドに車両を完全に乗せた状況の下で行わなければならない。燃料補給中は、他のいかなる作業(補給に関係しない部

分て車両に触れる等)も禁止される。

第39条 賞典

順位	スーパーバイク	GP250	GP125
1位	200万円	70万円	60万円
2位	80万円	40万円	40万円
3位	60万円	35万円	30万円
4位	45万円	30万円	25万円
5位	35万円	25万円	20万円
6位	30万円	20万円	18万円
7位	25万円	18万円	15万円
8位	20万円	15万円	12万円
9位	18万円	10万円	9万円
10位	15万円	8万円	8万円
11位	13万円		
12位	12万円		
13位	11万円	11～15位 7万円	11～15位 7万円
14位	10万円	16～20位 5万円	16～20位 5万円
15位	9万円		
以下決勝出走者全員	5万円	3万円	3万円

*2ヒートレースの場合は各ヒートごと上記の1/2とする。
*2ヒートレースで2ヒート目のグリッドについて着には5万円のグリッド賞が与えられる。

第6章 鈴鹿NK4シリーズ

第74条 車両規定

～1) 車種

①車両は(市販レーサーを除く)一般生産型で「レーサーレプリカ」以外の車両で、鈴鹿コンストラクターズコミッティーが公認したもの、又はネイキッド用コンプリートマシンとして、鈴鹿コンストラクターズコミッティーが認めたもの。

メーカー	車種
HONDA	CB400 SUPER FOUR, CB-I
KAWASAKI	ZEPHYR, ZRX
SUZUKI	GSX400S KATANA, BANDIT, GSX400 IMPULSE
YAMAHA	XJR400, DIVERSION

③ゼッケンは、赤字に白文字とする。

～2) 最低重量

- ・水冷車両…165kg
- ・空冷車両…145kg

第76条 鈴鹿コンストラクターズコミッティー・スペシャルプライズ

NK4シリーズ各大会に於いて、下記の賞典が鈴鹿コンストラクターズコミッティーより授与される。(第3戦より実施)

順位	賞典
優勝	3万円相当の副賞
2位	2万円相当の副賞
3位	1万円相当の副賞

副ピットパドック管理委員長 Assistant Pit-Paddock Controller	飯田 省三 Shōzō lida
救急委員長 Medical Director	室賀 良久 Yoshihisa Muroga
副救急委員長 Assistant Medical Director	梶田 勝久 Katsuhisa Masuda
医師団長 Chief Doctor	石原 公郎 Kimio Ishihara
マーシャルライダー Marshal on the Marshal Bike	千石 清一 Seiichi Sengoku
広報委員長 Public Relation Director	後藤 博泰 Hiroyasu Gotō
事務局長 Secretary General	市瀬 重敏 Shigetoshi Ichise
事務局次長 Assistant Secretary	吉田 隆文 Takafumi Yoshida
レースアナウンサー Official Announcer	みし奈 昌俊 Masatoshi Mishina
レースアナウンサー Official Announcer	稗田 美穂 Miho Hieda
鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen	鈴木万美子 Mamiko Suzuki
鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen	大工原 忍 Shinobu Daikuhara
鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen	安田 香織 Kaori Yasuda
鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen	和嶋 聡子 Satoko Wajima

コース	井上 和紀	若狭 義信	吉野 隆	西村 直人	長谷川賢一	南部 光男	松本 謙一	●ファイター
土田 雅美	杉本 輪央	赤井 潤	山本 紳二	豊田 英行	前川 郁子	今村 昭治	水口 誠	野田 浩二
早川 範良	宮崎由紀子	森藤 薫	馬越 大作	水谷 寿紀	松村 崇	川村 信也	上原 隆春	桂山 孝幸
土岐 康夫	廣瀬 聡毅	入山 晃	松村 達也	丸山 彰久	雪吹 泰伸	堀川 勝明	坂口 広昭	小林 寛
児玉 康裕	小川 泰寛	別所 弘次	小松 晃	杉谷 栄昭	中川 達彦	石井 光幸	増井 郁代	谷村 隆俊
立松 誠一	河津 孝典	赤井田夏彦	駒居 憲幸	岡岡 健治	川田 博利	横山 雄一	長安 秀幸	宮崎 常利
川邊 雅永	中野 伸彦	伊藤 佑広	松本 泰彦	木田 哲治	和田 佳子	●レスキュー	加藤 慶一	辻 克也
石田 吉孝	沖 浩	山田 正仁	小林 清成	中森 剛	桂 哲史	小野 浩行	石田 秀治	野島 進
内田 鉄弥	福山 毅	峰山 誉	依田 清豪	前川 敏彦	田代 和也	前西 彰	鈴木 一弘	吉田 圭一
芝谷 勝也	高須 秀彦	三田村修吾	保地 源	小川 桂一	谷口 吉昭	濱村 康弘	松本 修	小田 秀一
山下 洋	安藤 有人	田中 義克	小笠原克紀	山田 哲武	竹内 義之	長谷川孝司	上嶋 恵	●事務局
野木森秀実	内田 浩一	井上 和幸	橋本 孝生	西村 裕之	南雲 健司	新海 幸彦	白石 国元	早田 尚代
東山 幸雄	高木 克司	田中 博之	岡本 篤	米田 竜昇	熊崎 純也	四倉谷政幸	池田 俊二	桜井由紀子
土井 康正	河地 章	杉山 功	福岡 龍史	中郷 靖彦	林 俊夫	白川 清彦	伊藤真寿美	杉山 恵
小川 賢二	岡野 太郎	加藤 三典	鎌倉 義和	乙部 容子	市丸 寛之	小西 邦仁	清水 悟	西 由香里
杉山 明人	中島 夕輝	水野 英治	伊藤 篤	渡辺 俊之	建内 亮二	水野 英治	金子 隆	塚村 祥子
木村 実	笑福亭福輔	加藤 英典	水谷 信也	川端 智親	白杉 康	佐藤 峰生	羽尻 邦彦	孤田 幸子
田中 昭和	高 哲弘	武藤 慎一	石田 広之	西村 幸恵	川俣 俊一	渡辺 紳也	藤森 悦子	谷口 由美
諸岡 桂	森崎 彰文	細見 淳司	柳生 昌基	渡辺 保典	亀尾 亮介	古池 稔一	小田 隆	岡野 勝仁
津津 裕史	尾田 全史	細谷 聖	吉田 成美	吉田 成美	小室 貴史	森 貴史	山本 孝幸	北山 貴仁
市原 斉	仲間 豊	白石 誠路	上谷 喜弘	飯田 省三	鬼頭 武志	山本 英一	●計時	草山 正義
福谷 信行	鈴木 具晃	井川 達規	内藤 文博	片山 陸	尾上 慎一	吉村 一夫	牧野 真也	山下 一郎
坪井 清貴	軽部 勉	池戸 裕二	舟橋 伸介	松本 芳樹	島田 浩	柴田 亨	榎本 博文	太田 潔
片畑 清	上羽 義知	池田 喜人	鈴木 一彦	樋口 昇三	佐藤 教章	為永 憲和	伊藤 敦	森嶋 猛
奥田 裕章	山本 尚史	逸見 文俊	三谷 元人	石井 克彦	大沢 寛	星野 和義	池辺久美子	小林 美鈴
松尾 繁利	榎本 展久	大垣真一郎	上村 誠児	白田 和利	本山 茂樹	内山 充	中村美枝子	永田久美子
筒井 憲之	和木 政宏	田守 郁介	伊藤 大輔	赤坂 高司	足立 秀人	北村 辰二	前田智毅	山田 幸代
桑野 光章	山本 洋介	東野 貴士	宮澤 謙作	矢吹優加子	佐柳 進典	竹房 清文	関根 桐子	大河ひろみ
高野 正規	笠井 茂樹	篠原 賢一	田邊 良幸	佐藤英太郎	横山 捻雄	外松 慎一	津村 義則	
村上 康子	田中 利治	石栗 賢一	小林 恒太	小林加奈子	柴田 真也	小池 貴之	白杵 美和	
的場 秀光	伊藤 誠	石田 勝規	中村 良美	兼松 一成	野崎 博充	菱木 高日	下野信司	
山本 信一	三浦 淳一	大谷 一生	塩田 勝美	串本 忠男	新 康弘	中台 道夫	太田由美子	
広瀬 宣弘	馬場 卓也	岡 篤志	増石 利明	西野 仁貴	坂本 圭司	中野 直樹	吉岡 友紀	
広瀬 江里	白井 浩行	井上 忠志	●パドック	●パドック	野崎 智康	●車検	小宮 誠	
高橋 英樹	小田 拓美	竹辺 泰	片受 朋史	八木 秀晃	森川智香子	鈴木 美砂	高橋 公樹	
松本 義幸	野間 洋	板坂 栄次	匂田 緑	藤木 宏行	西谷 圭介	佐々木鉄男	阪田 敏治	



SUPER BIKE START 14:00 35LAPS

マールボロGPで鎖骨骨折を負い、第2戦菅生は苦しい戦いとなったが、それでも3位表彰台をもぎ取った青木。鈴鹿では開幕戦のような圧勝劇を見せることができるか？

全日本スーパーバイク 激戦、第2幕へ...

全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 鈴鹿スーパーバイク200km
今シーズンもいよいよ中盤戦。特に今大会は8耐の前哨戦として
注目の一戦だ。拓磨と克昭のライバル対決。柳川 明、藤原儀彦…
そしてドゥカティ勢。さて、200km・35周を真っ先に駆け抜けるのは？

拓磨には負けられない克昭

モータースポーツだから当たり前なのだが、今年は特にマシンとライダーのちょっとした調子やセッティングで大きく状況が変わってしまう。それも、全体のレベルが

高く拮抗しているから、これほどおもしろいシーズンもそうはない。

例えばディフェンディングチャンピオンの青木拓磨。その才能からすれば、ぶっちぎりで優勝してもおかしくない。けれど、ストレートでの伸びを誇ったRVF/RC45

も、その差をライバルに詰められ、コーナーでは拓磨本来の鋭い走りではなく、丁寧に乗っているのが印象的だ。

これはマシンの特性や状況との相談なのだ。AMAで同じマシンに乗るミゲール・デュハメルはその逆で、コーナーじゃフルバンク近くからワイドオープン。当然ホイールスピンにフルカウンター。リアタイヤからは毎回スモークを上げる。こうすると、立ち上がりで回転が上がって脱出速度が上がる。コーナーでの旋回性だって、無理矢理に近いけれど良くなる。けれど、これも路面のミューが低いコースで、しかもダートトラックとかアイスレースでの経験が豊富だからできること。世界一ともいわれるグリップのいい鈴鹿で、この走りは無駄が



第2戦菅生で2位表彰台に上り、本来のタフな走りが戻ってきた柳川 明。



14kgもの減量を乗り越え、今季にかける芳賀紀行。

今シーズンのヤマハの初勝利をサテライトの芳賀に先を越された藤原儀彦。起死回生の一撃が待たれる。



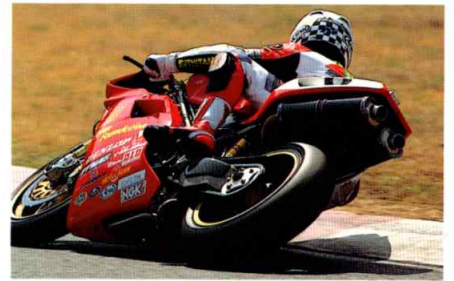
多く、リスクが大きい。すると、現在のRC45とミシュラン17インチタイヤでは、拓磨の走りは正解なのだ。まあ、ケガなど体調面との相談もある。だから拓磨がやけにスムーズに走っていると見えたら、アグレッシブさが消えたのではなく、現在はそのほうが良い、という選択なのだ。GPで活躍する自分の兄弟への意識も当然ある。全日本のタイトルと8耐優勝。これが自分の未来への道を開くことになるし、兄弟への強烈なカウンターパンチとなるのだ。

一方、挑戦者サイドは、イケイケムードが高まっている。スズキは、ニューGSX-Rの投入、大型移籍でがぜん元気がある。特に藤原克昭は、マールボロGPの500で序盤トップを走るなど才能の高さをアピール。普段の行動や風貌は豪快、明るい、元気そのもの。けれども、内面はけっこう細かいところがあって、しかも研究熱心。走りは一見豪快だが、本質的に荒っぽくない。そ

れこそイケイケをしてもいい場所では豪快にスライドを見せるけれど、逆に、丁寧に乗らなければならないところはスムーズ。だから、印象とは違って良く考えた走りなのだ。それに克昭は、拓磨には負けられない理由がある。250時代同じチームにいた。でも、そのとき拓磨はすでに青木ブラザーズの次男としてスターだった。カワサキに移籍して、一度は諦めかけた500への道も、スズキに移籍して開かれた。近い将来の目標は拓磨と同じ。そのためには、全日本スーパーバイクで拓磨に負けるわけにはいかない。今こそ、力を見せるときだ。

そんなライバル意識はチームの先輩北川圭一にもある。当然古巣のカワサキ勢には負けられないし、克昭にもだ。相変わらず走りは鋭い。特にコーナーに切り込んでいくときは、圧巻だ。

4ストの雄カワサキの意地



200kmではドゥカティ勢の苦戦が予想されるが……。

カワサキ勢は、スズキやホンダに対して相当の意識がある。武石伸也はホンダに対して、チーム全体ではスズキに対してだ。柳川 明にしても元スズキ。ダブルクレードルフレームの従来型GSX-Rでは苦戦した。ところが、そのスズキは今年、完全なニューマシン。これが1年早くデビューすれば……。今シーズン、ニューマシンを得て、かつての思い切りのいい走りが戻った。一気にフルバンクまで持っていき走りは、前後16.5インチタイヤの特性にピッタリで、柳川のコーナリング中のエンジン音はひときわ高い。梁 明は、サテライトチームから昇格したチャンスの年。移籍が何だかんだといわれて騒がれている連中に、数字と結果で自分の力を示すのだ。カワサキは、スーパーバイクこそ唯一のターゲット。他の3メーカーが500という、もうひとつの目標を持っているのとは異なる。だから、ワールドスーパーバイクのサイモン・クラファをスポットで起用するのも、8耐への布石だ。マシンも8耐用が用意される可能性が高い。そのマシンは、今シーズン、4メーカー中最も多くのトライが見られる。人にもマシンにも、ライムグリーンの男た

ワイルドカード参戦のマールボロGPで序盤トップを激走、非凡な才能を世界にアピールした藤原克昭。





Rd.1 SUZUKA (3/16・17)

ポールポジションこそ藤原克昭に奪われたものの、決勝レースは青木の独壇場だった。ウエットコンディションの中、ホールショットを奪った青木は見ると2位以下を引き離していった。タイヤのアドバンテージも大きい、圧倒的なリードに甘えることなく攻め続けた結果、見事な勝利だった。

ちからは、譲れない意地を感じる。

芳賀の速さには理由がある

ヤマハはシーズン前、そんなに評価が高くなかった。それが、純ワークスではないテクノの芳賀紀行が第2戦で初優勝した。意外な印象を受けた人たちが多かったようだ。けれど、違う。芳賀兄弟の弟・紀行は、チームファンデーションでドゥカティ926を走らせていたときから、そのスロットルを開けている時間の長さやセンスを高く評価されていた。しかも、今年は太り気味だった体形を14kgも減量。相当の意気込みでシーズンに臨んでいた。マシンだって、サテライトとはいうものの、実質的には仕様の異なるワークス車を使うだけ。戦闘力の劣る型落ちではない。ここ数年、トータルバランスの良さがヤマハの特徴だったけれど、シーズン当初は、そのバランスを崩し探っている状態だった。それがエース、藤原儀彦と紀行が仕様の異なるマシンを乗ることでテストが進み、いい仕様が第2戦で見つかった、と考えるべきだろう。藤原にし



Rd.3 TSUKUBA (5/18・19)

決勝は鈴木 誠、宗和らの多重クラッシュにより赤旗再スタートとなる波乱の展開。2回目のスタートでは予選1-2の北川、藤原克昭が飛び出したが、8番手スタートの青木が序盤から飛ばし、3周目にトップに立つとその後を独走。中盤以降、藤原儀彦が激しく青木を追い上げたが届かず、2位に終わった。

ても、ライダーの調子が悪いのではなくて、マシンの調子を探っていたのだ。だから、これからがおもしろい。マシンも特徴である高速域の伸びにも磨きがあった。

そしてプライベートのドゥカティ3人。生見友希雄はドカ2年目。チームファンデーションの名越メカは、マシンの仕上げには定評があるから、期待大だ。チーム片山の鈴木 誠は、もともとツインに乗せたらピカイチのライダーで、元ドカワークスの清水メカについているのも強みだ。宗和孝宏はスポンサー集めで出遅れたが、ここに来てハード面がそろったから、マジカワサキとFBF(AMAの実質上のドカワークス、ファースト・バイ・フェラッチ)で3年間AMAにフル参戦した力を、そろそろ見せてもらえるだろう。メカもカワサキ時代から一緒に渡辺メカで、彼はFBFでドカを知り尽くしている。ただドカ勢は、200kmにつきもののピットインでは不利。タイヤ交換や給油を想定したマシンではないからだ。

そして話題のタイヤ。開幕戦鈴鹿100マイルでは、雨のミシュランは相変わらず健在で、拓磨の強い味方だった。ただドライではダンロップの新兵器前後16.5インチが威力を発揮している。常識的には200km35周でピットイン1回。ガソリン補給とタイヤ交換だ。ただ作戦によってはタイヤ無交換もある。ガソリン補給だけなら6~7秒。加えてタイヤを前後交換すると、



Rd.2 SUGO (4/27・28)

梁を先頭にカワサキ勢がグリッドの1-2-3位を独占。しかし4番手から好スタートを見た芳賀紀行は、塚本と武石の背後から機をうかがっていた。やがて武石がコースアウトし脱落。そしてレース中盤、塚本をパスした芳賀はハイペースを維持して一気にリードを築き、念願のスーパーバイク初優勝を遂げた。



第2戦菅生から、ドゥカティを駆り全日本に復帰した宗和。

トータルで13~15秒。当然フレッシュタイヤのほうがラップタイムは速い。無交換なら、それなりのペースでタイヤを温存しながらとなる。勝負はそのプラス・マイナスだ。さて、今回はどんな作戦と意地がぶつかるのか。問題はピットインまでに、どんな展開になっているかだけれども……。

スーパーバイククラス・ポイントランキング(第3戦/筑波終了時)

順位	ゼッケン/ライダー	マシン	ポイント 合計	第1戦 鈴鹿 3/17	第2戦 菅生 4/28	第3戦 筑波 5/19
1	1 青木 拓磨	H-RVF/RC45	55	20	15	20
2	9 梁 明	K-ZX-7RR	43	15	13	15
3	10 芳賀 紀行	Y-YZF750SP	33	13	20	0
4	5 藤原 儀彦	Y-YZF750	31	6	8	17
5	6 柳川 明	K-ZX-7RR	30	0	17	13
6	2 武石 伸也	K-ZX-7RR	29	11	9	9
7	45 武田 雄一	H-RVF/RC45	25	8	7	10
7	3 藤原 克昭	S-GSX-R750	25	17	0	8
9	7 北川 圭一	S-GSX-R750	21	0	10	11
10	19 芹澤太麻樹	S-GSX-R750	15	10	5	-
11	26 和泉美智夫	H-RVF/RC45	13	9	1	3
12	15 塚本 昭一	K-ZX-7RR	11	-	11	-
12	18 金安 智彦	H-RVF/RC45	11	7	4	0
14	14 鶴田 竜二	K-ZXR750R	10	2	2	6
15	13 長谷川克憲	Y-YZF750SP	8	0	3	5

(公式得点) 1位→20点、2位→17点、3位→15点、4位→13点、以下5~15位→11~1点

SUPER BIKE MACHINES

HONDA RVF/RC45



①青木拓磨 (TEAM HRC)

全日本の500ccが休止し、同時に4ストロークレースもTT F1からスーパーバイクに移行した94年にデビューしたRVF/RC45。究極の4ストレーサーといわれたTT F1のRVFレプリカであると同時に、電子制御燃料噴射PGM-FIなど、新時代の750ccスーパーバイクとして注目された。そのRC45も今年で3シーズン目。水冷90度V4カムギアトレンDOHC 4バルブ、ボア・ストローク72×46mm、749ccは依然最強のパワーを誇る。

95モデルから採用した左2本出しマフラーは、排気騒音を抑えながら燃費と高回転域での「抜けの良さ」が特徴だ。EXパイプはチタン。吸気側は走行風でエアボックスの新気を加圧し、さらに可変エアファンネルを採用。エアファンネルは通常短いと高速型、長いと低中速型だが、これはそれを一気に手に入れた新機構。スロットル開度やエンジン回転などにリンクし、レスポンス良く反応する。もともと4輪F1のV12で実戦投入された技術だ。インジェクターボディはφ46mmと大径。これらをコンピュータで集中コントロールする。基本



⑥和泉美智夫 (モリワキレーシング)

となるのはROMだが、コントロールユニットのポリウム調整で、キャブのジェット類交換にあたるセッティングを行う。タイヤは全日本ワークス勢としては唯一ミシュランを使い、前後17インチ。GPで投入されたリア16.5インチは、今のところスーパーバイクには使われていない。またプライベートRC45でいつもワークス勢に迫るモリワキはダンロップだ。

SUZUKI GSX-R750

今年、それまでGSX-Rの特徴だったダブルクレードルフレームからアルミツインスパイに、そして、エンジンもスタイルもすべて一新したのがGSX-R750だ。エンジンは水冷前傾25度並列4気筒で、幅や前後長を極力詰めたコンパクトな750専用設計。シャシーもワークス仕様で「1350~1360mm



⑨芹沢太麻樹 (ヨシムラ・スズキ・GP1プラス)

近辺」とまでいわれるショートホイールベース、RGV-I'500からフィードバックした空力特性に優れたカウルも特徴。GSX-Rの特徴である、ややファットなテールカウルは、相手にスリップストリームにつかせにくくする効果があるのだ。

キャブはスタンダードが負圧式電子制御ミクニBDST39であるのに対して、スーパーバイクはミクニTDMR40。これは今シーズンからの新レギュレーションである「公認キャブ制度」を利用したもので、キャブ交換が可能になったのだ。吸気はラムエアのダウンドラフトで、燃焼室、ポート、バルブ挟み角、エンジン前傾角などは、最初からラムエアを最大限に生かすように設計された。全日本ワークス仕様の前後サスはカヤバで、ブレーキはニッシン(どちらもスペシャル)。タイヤは今シーズン話題のダンロップ前後16.5インチで、F: 125/65-420、R: 195/55-420。最後の420は、420mm=16.5インチを意味する。またヨシムラは去年可変ファンネルを実戦投入し、この新型でもテストを行っている。サスは前後オーリンズだ。キャブのMJNIは、レース用スペシャルを使う。



KAWASAKI ZX-7RR



⑦柳川 明 (KRT RR)

今シーズンから海外と同じZXR750からZX-7Rと呼ぶようになったカワサキ。このSPモデルが可変ピボット&キャスター、FKVD41(ケイビンFCRのカワサキ呼称)などを装備したダブルR=ZX-7RRだ。エンジンは、従来のボア・ストローク71×47.3mmから高回転型ショートストロークの73×44.7mmと一新。外観的にもフロントカウルの左右に配置されたラムエア用大型ダクトが目玉を引く。73mmのボアは、750cc4気筒勢では最大で、狙いは高回転高出力はもちろん、高回転域でのスムーズな特性だ。従来型は荒々しいパワーだったのに対して、新型はスムーズに伸びていく。タイヤはカワサキもダンロップの前後16.5インチを採用。ショートホイールベースシャシーとの組み合わせは、相当の旋回力を生む。マフラーは社外のビート製を採用。サスは前後オーリンズだ。

YAMAHA YZF750



⑤藤原慎彦 (Y.R.T.)

いち早く前傾エンジンを採用していたヤマハ。そのYZFのボア・ストローク72×46mmDOHC5バルブは健在で、今シーズンはさらに高速域での伸びが良くなった。ワークス系YZFは、Y.R.T.の藤原車とテクノの芳賀車では、スイングアームなどシャシーの補強が異なる。もともとYZFは、トータルバランスの良さが特徴だった。けれど、シーズン当初は逆にこのバランスを崩していた面があり、補強や各部のパーツの剛性を調整しているために、仕様の異なった2台が存在するようだ。サスは前後オーリンズ。タイヤはダンロップの前後16.5インチ。タイヤ交換用のドリフスプロケットとブレーキを左側にまとめた独特の機構も健在。また、排気ポート直後が精円で、下に曲がるあたりで正円となる凝った断面形状を持つEXパイプもヤマハの特徴だ。

DUCATI 916



③生見友希雄 (チーム・ファンデーション)

全日本に3台出場(生見、鈴木、宗和)しているドゥカティ916。水冷90度ツイン・強制閉閉バルブ機構アスドモロミック・コグドベルト駆動DOHC4バルブ。それぞれ916のキットパーツ組み込みの限定市販レーサー。コルサ=955ccをベースに使うが、この中で宗和だけはアメリカのドカワークスともいえるFBF仕様も持つ。エンジンはスタンダード916のボア・ストローク94×66mmから96mmピストンを使って955ccにボアアップしたものか市販コルサに積まれている。これに、さらに2mmオーバーの98mmとしたのがワークス仕様995ccで、宗和が本番用として基持っている。フレームはドカの特徴でもあるクロモリパイプのスペースフレーム。スイングアームはホンダに良く似たシングルサイドで、ワークス仕様はマグネシウム。タイヤは前後17インチだ。

③藤原克昭 (ラッキー・ストライク・スズキ)

1 青木拓磨 Takuma AOKI



**HONDA RVF/RC45
TEAM HRC**

1974年2月24日生まれ(22歳) A型 群馬県出身
91年国際A級昇格
92年全日本GP250クラス・ランキング4位
93年全日本GP250クラス・ランキング2位
鈴鹿8耐3位入賞(with マイク・スマス)
94年全日本スーパーバイク・ランキング2位
95年全日本スーパーバイク・チャンピオン
96年全日本スーパーバイク参戦(第1戦鈴鹿 優勝
/第2戦菅生3位/第3戦筑波 優勝)

6 柳川 明 Akira YANAGAWA



**KAWASAKI ZX-7RR
KRT RR**

1971年7月15日生まれ(24歳) O型 鹿児島県出身
90年鈴鹿4耐優勝(with 宇川 徹)
91年国際A級昇格
92年全日本TT F1クラス・ランキング6位
93年全日本TT F1クラス・ランキング5位
94年全日本スーパーバイク・ランキング10位
95年全日本スーパーバイク・ランキング6位
鈴鹿8耐3位入賞(with 藤原克昭)
96年全日本スーパーバイク参戦(第1戦鈴鹿 33位
/第2戦菅生2位/第3戦筑波4位)

2 武石伸也 Shin'ya TAKEISHI



**KAWASAKI ZX-7RR
KRT RR**

1967年10月5日生まれ(28歳) A型 北海道出身
91年国際A級昇格
92年全日本TT F1クラス・ランキング3位
鈴鹿8耐3位入賞(with 岩橋健一郎)
93年全日本TT F1クラス・ランキング2位
94年全日本スーパーバイク・ランキング5位
鈴鹿8耐3位入賞(with 伊藤真一)
95年全日本スーパーバイク・ランキング2位
96年全日本スーパーバイク参戦(第1戦鈴鹿 5位
/第2戦菅生7位/第3戦筑波7位)

7 北川圭一 Keiichi KITAGAWA



**SUZUKI GSX-R750
ラッキーストライク・スズキ**

1967年3月24日生まれ(29歳) A型 京都府出身
90年国際A級昇格
全日本TT F1クラス・ランキング13位
91年全日本TT F1クラス・ランキング8位
92年全日本TT F1クラス・ランキング2位
93年全日本TT F1クラス・チャンピオン
94年全日本スーパーバイク・ランキング3位
95年全日本スーパーバイク・ランキング7位
96年全日本スーパーバイク参戦(第1戦鈴鹿
リタイア/第2戦菅生6位/第3戦筑波5位)

3 藤原克昭 Katsuaki FUJIWARA



**SUZUKI GSX-R750
ラッキーストライク・スズキ**

1975年3月27日生まれ(21歳) O型 山口県出身
92年鈴鹿4耐優勝(with 青木治親)
93年国際A級昇格
全日本GP250クラス・ランキング18位
94年全日本GP250クラス・ランキング3位
95年全日本スーパーバイク・ランキング3位
鈴鹿8耐3位入賞(with 柳川 明)
96年全日本スーパーバイク参戦(第1戦鈴鹿 2位
/第2戦菅生リタイア/第3戦筑波8位)

8 生見友希雄 Yukio NUKUMI



**DUCATI 916
チーム・ファンデーション**

1966年3月18日生まれ(30歳) A型 静岡県出身
87年国際A級昇格
92年全日本GP250クラス・ランキング11位
93年全日本GP250クラス・ランキング6位
94年全日本スーパーバイク・ランキング15位
95年全日本スーパーバイク・ランキング8位
96年全日本スーパーバイク参戦
(第1戦鈴鹿リタイア/第2戦菅生10位
/第3戦筑波リタイア)

5 藤原儀彦 Norihiko FUJIWARA



**YAMAHA YZF750
Y. R. T.**

1966年10月8日生まれ(29歳) A型 東京都出身
86年国際A級昇格
全日本GP500クラス・ランキング6位
87~89年全日本GP500クラス・チャンピオン
90・91年全日本GP500クラス・ランキング2位
92・93年全日本GP500クラス・ランキング3位
94年全日本スーパーバイク・ランキング4位
95年全日本スーパーバイク・ランキング5位
96年全日本スーパーバイク参戦(第1戦鈴鹿 10位
/第2戦菅生8位/第3戦筑波2位)

9 梁 明 Akira RYO



**KAWASAKI ZX-7RR
KRT RR**

1967年10月20日生まれ(28歳) O型 東京都出身
90年国際A級昇格
全日本TT F3クラス・ランキング3位
91年全日本TT F1クラス・ランキング4位
92年全日本TT F1クラス・ランキング19位
93年全日本TT F1クラス・ランキング9位
94年全日本スーパーバイク・ランキング8位
95年全日本スーパーバイク・ランキング9位
96年全日本スーパーバイク参戦(第1戦鈴鹿 3位
/第2戦菅生4位/第3戦筑波3位)

10 芳賀紀行
Noriyuki HAGA



YAMAHA YZF750 SP
テクノモーターエンジニアリング
1975年3月2日生まれ (21歳) B型 愛知県出身
92年鈴鹿NB-SP250クラス・ランキング6位
93年国際A級昇格
全日本GP250クラス・ランキング13位
94年全日本スーパーバイク・ランキング9位
95年全日本スーパーバイク・ランキング10位
96年全日本スーパーバイク参戦 (第1戦鈴鹿4位
/第2戦菅生 優勝/第3戦筑波 リタイア)

41 宗和孝宏
Takahiro SOWA



DUCATI 916
Team SOHWA
1965年9月21日生まれ (30歳) O型 兵庫県出身
86年国際A級昇格
88年全日本TT F1 クラス・ランキング5位
89年全日本TT F1 クラス・ランキング8位
90年全日本TT F1 クラス・ランキング4位
91年全日本TT F1 クラス・ランキング3位
92年全日本TT F1 クラス・ランキング8位
93~95年AMAスーパーバイク参戦
96年全日本スーパーバイク参戦
(第2戦菅生 リタイア/第3戦筑波 リタイア)

19 芹沢太麻樹
Tamaki SERIZAWA



SUZUKI GSX-R750
ヨシムラ・ススキ・GP1プラス
1972年9月28日生まれ (23歳) O型 埼玉県出身
89年モトクロス国際A級昇格
92年ロードレースへ転向
93年スーパーカップイースタン
シリーズGP250 チャンピオン
94年国際A級昇格 全日本スーパーバイク参戦
95年全日本スーパーバイク・ランキング21位
96年全日本スーパーバイク参戦
(第1戦鈴鹿6位/第2戦菅生 11位)

45 武田雄一
Yūichi TAKEDA



HONDA RVF/RC45
TEAM HRC
1977年11月29日生まれ (18歳) A型 埼玉県出身
94年国内B級昇格
鈴鹿4耐2位入賞 (with 池田吉隆)
95年サンダーバイクシリーズ・ランキング13位
96年全日本スーパーバイク参戦
(第1戦鈴鹿8位/第2戦菅生 9位/
第3戦筑波 6位)

21 新井秀也
Shūya ARAI



HONDA RVF/RC45
モリワキレーシング
1965年12月1日生まれ (30歳) AB型 愛知県出身
90年国際A級昇格
91年全日本TT F1 クラス・ランキング24位
92年全日本TT F1 クラス・ランキング17位
94年全日本スーパーバイク・ランキング23位
95年全日本スーパーバイク・ランキング21位
96年全日本スーパーバイク参戦
(第1戦鈴鹿 12位)

51 サイモン・クラファ
Simon CRAFAR



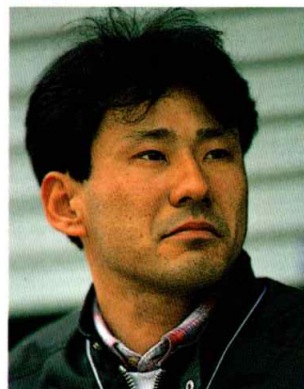
KAWASAKI ZX-7RR
KRT RR
1969年1月15日生まれ (27歳) ニュージーランド出身
89年鈴鹿8時間耐久参戦 決勝43位
92年世界選手権スーパーバイク・ランキング39位
鈴鹿8時間耐久参戦 決勝18位
93年スーパーバイク世界選手権・ランキング21位
世界GP500クラス・ランキング25位
世界GP250クラス・ランキング21位
94年世界選手権スーパーバイク・ランキング5位
95年世界選手権スーパーバイク・ランキング6位
96年世界選手権スーパーバイク参戦

26 和泉美智夫
Michio IZUMI



HONDA RVF/RC45
モリワキレーシング
1967年10月2日生まれ (28歳) O型 大阪府出身
91年全日本TT F3 クラス・ランキング5位
93年全日本TT F1 クラス・ランキング12位
94年全日本スーパーバイク・ランキング11位
95年全日本スーパーバイク・ランキング26位
96年全日本スーパーバイク参戦 (第1戦鈴鹿7位
/第2戦菅生 15位/第3戦筑波 13位)

76 鈴木 誠
Makoto SUZUKI



DUCATI 916
TEAM・KATAYAMA
1964年7月17日生まれ (31歳) A型 静岡県出身
90年国際A級特別昇格
全日本GP250クラス・ランキング24位
91年全日本GP250クラス・ランキング19位
92年全日本GP250クラス・ランキング16位
93年全日本GP250クラス・ランキング9位
94年全日本スーパーバイク・ランキング19位
96年全日本スーパーバイク参戦
(第1戦鈴鹿 リタイア/第2戦菅生 17位/
第3戦筑波 リタイア)



青木拓磨

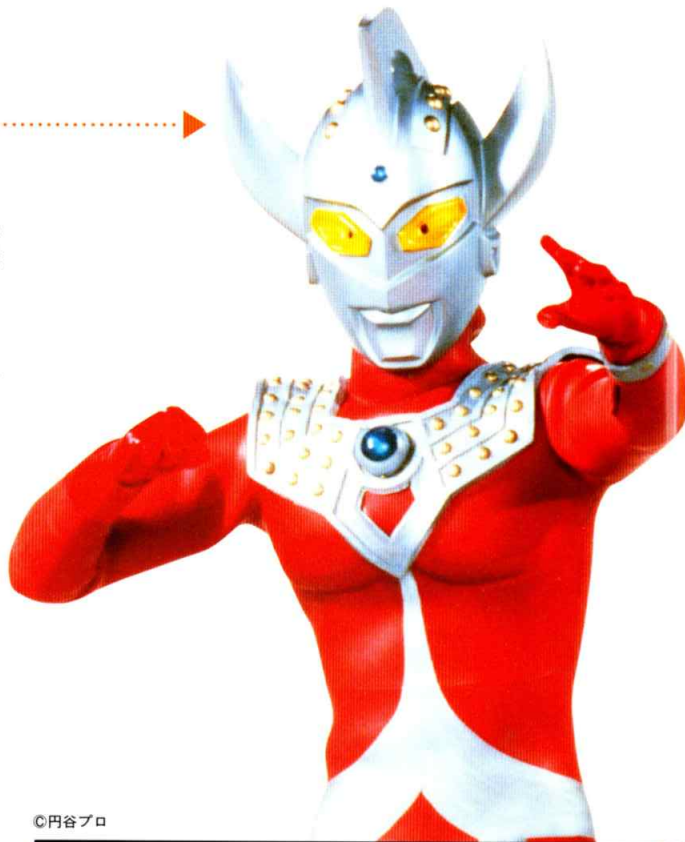
ウルトラマンタロウ

小さい頃は、どちらかと言えばおとなしくて目立たない子だったと思う。勉強も運動も普通。そんな僕が大好きだったのがウルトラマンタロウ。好きな理由は、ツノがあって強そうに見えるところ。8歳の時からポケバイに乗り始めて、3兄弟みんなレースをやっていたから、子供の頃の思い出はバイクばかり…。だけど、ウルトラマンだけは3兄弟で夢中になって見てた番組だよ。

小学校から走って帰ってきて、テレビの前にかじりついて見てた。怪獣をやっつける時は、自分も一緒にドキドキ。胸のランプの点滅にハラハラしたりしてね。そして、番組の最後に「円谷プロ」ってクレジットが出るでしょう。小さい時は読み方が分からなくて、「エンタニプロ」ってへんな名前だな、なんなんだろうと首をかしげてたんだ(笑)。

それが20歳になって、スポンサードの話があって円谷プロの人に会うことになるなんてとても不思議な気がした。そして、3兄弟がそれぞれ役をもらったんだ。兄ちゃん(宣篤)がゾフィーで、僕がセブン。ハル(治親)がウルトラマン。その役どころで、CMにまで出てしまった。本当はウルトラマンタロウをやりたいかったけど、ウルトラ兄弟の生まれ順で役が決まるから無理だったんだ。ちょっと残念だったけど、CM出演は楽しかったよ。8耐でも、ウルトラマンの応援を受けたりと3兄弟はお世話になりっぱなし。

ウルトラマンは男の子の永遠のヒーローだと思う。嫌いな人には会ったことないもん。自分にとってもタロウを越えるヒーローは出てきそうにないな。タロウのように、強く、かっこよくライバルたちを蹴散らして、今年もチャンピオンを狙うよ!



©円谷プロ

タロウのように
かっこよく、強く
ライバルを倒す!

うさぎ飛びで
飛雄馬を目指す
野球少年だった

ライダーじゃなかったら、プロ野球の選手になりたかった。子供の頃、仲のいい友達に誘われて少年野球チームに入ったんだ。毎日、暗くなるまでグラウンドを駆け回ってた。最初は球拾いばかりだったけど、小学校5年生くらいからは試合に出してもらえるようになった。6年生の時には、4番打者でポジションはピッチャー。

だから、大好きだったマンガは「巨人の星」! 星飛雄馬のようになりたいと思いつつ、テレビを熱心に見ていた。オープニングの歌の部分で、うさぎ飛びをするシーンがあるんだけど、それを真似してうさぎ飛びでグラウンドを回ったりして。今思い出すと笑っちゃうけど、あの頃は真剣だった。

努力して、這い上がっていく飛雄馬の姿に感動してたね。僕にはちゃぶ台を引つ繰り返すお父さんも、柱の影から見ている姉ちゃんもいなかったし、飛雄馬のような魔球も投げられなかったけど、いつかはプロになりたいと考えていた。

だから、中学校に進んでも坊主で野球部。真面目な生徒だったと思うよ。素振りをしたり、走ったりと練習は真剣。休まなかった。高校に進んでも、野球部に入部。でも、試合に勝った記憶があんまりない。少年野球の時も1回戦か2回戦で負けていたし、中学校でも高校でもね。チームプレーだから、自分だけ頑張っても結果はついてこない。やっぱり僕は団体競技に向いてないのかなあ〜と思いついたころに出会ったのがバイク。

もう、バイクに出会ってからは一直線、夢中だった。いつのまにか、プロ野球選手になる夢が、プロライダーになる夢へと変わってしまったんだ。

藤原儀彦

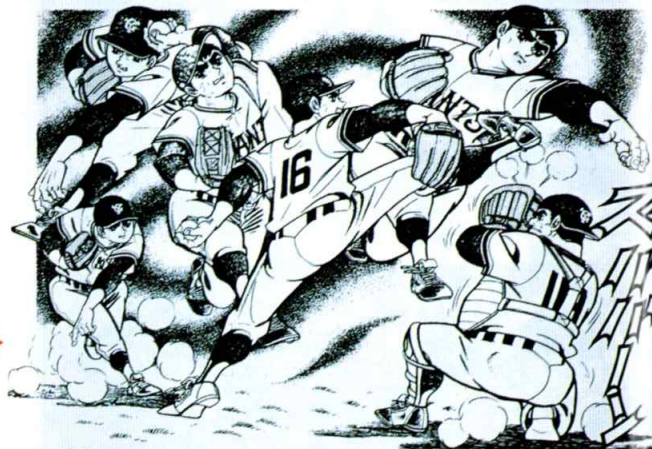
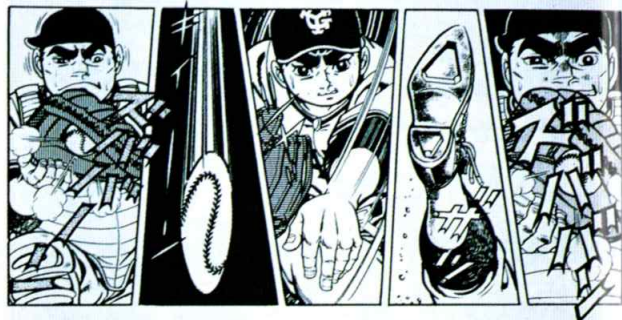
「巨人の星」星 飛雄馬



なつかしいあの頃
今でも心に残る……
スーパーバイク
ライダーが語る

幼い頃見たテレビやマンガのヒーローたち
スポ根マンガの主人公に触発され
正義の味方の活躍にハラハラドキドキ…
そんな思い出のヒーローをライダー4人に聞く

©梶原一騎・川崎のぼる/講談社





©石森プロ・東映

藤原克昭

仮面ライダーV3

幼 稚園の頃に、夢中になっていたのが仮面ライダーV3。たくさんのキャラクターがあってみんな好きだけど、V3は特に印象に残ってる。おこずかいを握りしめて、キャラクターグッズが入ったお菓子を買いに走ったし、仮面ライダーシールを集めて、机やタンスにベタベタ貼ってた。

ガキ大将だったから、近所の仲間を集めてV3ごっこをしてよく遊んだよ。もちろん、V3の役は僕。デストロン役の友達をやっつけて、得意になってたような気がする。大きな原っぱを、暗くなるまで走り回って、でっかい声で「ヘンシン〜！」って叫んでた。大きくなったら仮面ライダーV3になれますように……って、セタの短冊に書いた思い出もあるんだ。

日曜日の朝にテレビでV3をやっていたんだけど、2つ下の弟と一緒に熱心に見てた。いつも、やられそうになってからV3に変身するんだよね。でも、子供心に初めから変身して出てきたらいいのに〜、そうしたらもっと早くやっつけられるのに。なにやっつてんだらうって、早く変身しろノって真剣に思ってたこともよく覚えているよ。

8歳になって、自分がボケパイで走るようになってからは、マンガよりレースに夢中だったから、それ以降のV3に関する記憶はなくなっていった。架空の物語より、自分のレースに精一杯になってしまったからだと思う。それに日曜日はレースで、テレビも見れなくなってしまったからね。

結局、仮面ライダーV3にはなれなかったけど、今はプロのライダーとして頑張っているわけだから、僕のセタの願いは叶えられたんじゃないかと思っているんだ。



「ヘンシン〜！」
V3ごっこに
夢中だったあの頃

「ぼくらのヒーロー」

中 学校の頃に、兄ちゃんと夢中になって読んでいたのが「バリバリ伝説」。でも最近、バレンタインに奥さんから全巻プレゼントされて、また読み直しているんだ。今読む方が感動が深いね。

「バリバリ伝説」は、ノービス、全日本、世界GPと3部作になっているんだけど、全日本時代の話は、押し掛けスタートだったり、A級、B級混走レースだったり、自分の知らないレースが描いてあって面白い。

特に印象に残ってるシーンは、250の世界GPで、ガンがカルロス・サンダーとやり合うところ。このサンダーとガンの関係も良くて、サンダーがガンを世界GPに引っ張っていくようになるんだ。そのふたりが戦う舞台は鈴鹿。最終ラップのシケインで、ガンが逆転優勝を決める。このシーンは、かっこよくて自然と力が入ってしまう。自分はいつもシケインでやられてしまうことが多いから、身につまされるというか、こうでなきゃいけないとか、いろいろ考えさせられるんだよね。

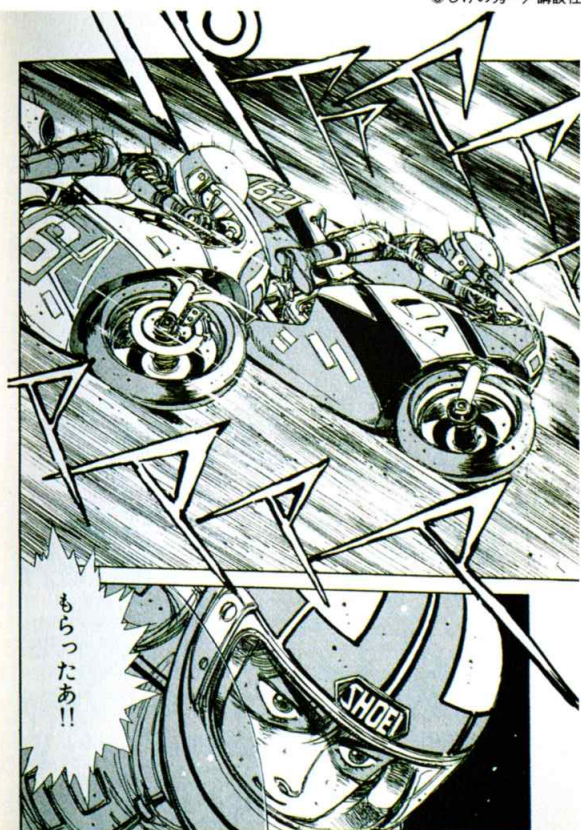
昔、このマンガを読んでいた頃はまさか自分がプロのライダーになれるとは思ってなかった。だから、架空の世界として楽しんでいただけ、今は感じ方が全然違って、より現実的に楽しめるんだ。本のお金に流れている「闘争心」のようなものを、自分も大切にしたいと真剣に思ったり、考えたりする。

実はレース前に、気分を高めるために読み返したりもするんだ。だから、しばらく「バリバリ伝説」は手放せないものになっている。鈴鹿200kmでは、ガンのように最終ラップのシケインでバシッと決めて勝ちたいな。

柳川 明

「バリバリ伝説」巨摩 郡

僕にとって
「バリバリ伝説」は
手放せないマンガ



©しげの秀一/講談社

カーライフでもポールを狙え!



クルマ生活の名アドバイザー

Best Car ベストカー

BI-WEEKLY

毎月10日・26日発売

ひとつのテーマがじっくり読める

ベストカー V 即効版

絶賛発売中! ●定価(各)680円(税込)

いま「買い」の1台はズバリこれ!

極上絶版車に乗る!

ついに規制緩和!!最新対応版

絶対合格!! 改造車検



レッドバッジシリーズ

クルマ選びから運転テクニックメンテナンスまで

183 土屋圭市 必勝定回り秘伝 土屋圭市

185 カー用品をきれいにつける!RV編 青山元男

184 カー用品をきれいにつける!スポーティカー編 青山元男

●定価(各)1000円(税込)

好評発売中!

アメリカンモータースポーツ
ナスカー、
日本初上陸。



NASCAR
Suzuka

鈴鹿サーキット
東コースで
大バトル

ナスカー鈴鹿 サンダースペシャル100

THUNDER SPECIAL

11月22日(金)フリー走行
23日(土)公式予選
24日(日)決勝

1000

アメリカで、野球・フットボール・NBAなどを凌ぐ人気のナスカーが、いよいよこの秋、鈴鹿サーキットで開催される。アメリカ製の市販車のシルエットをまとい、700馬力のビッグマシンが繰り広げる接近戦バトルは、ナスカーならではの迫力だ。アメリカではオーバルとロードコースで熱戦が展開されているが、鈴鹿では東コースでの開催、しかも2セグメント(ヒート)制のスペシャルイベント。第2セグメントでは第1セグメントで速かったマシンを後方からスタートさせるインバート方式の採用で、エキサイティングな追い越しシーンの連続になることは必至だ。参加ドライバーは、7度のシリーズタイトル獲得のデイル・アーンハートをはじめ、トップドライバー約30人。D・アーンハートの言う「オーバルコースに近いフィーリング」の鈴鹿サーキット・東コースで、本場アメリカの熱いバトルそのままのレースが展開されることは間違いない。日本人選手のチャレンジにも期待大だ。



アメリカで超人気のデイル・アーンハートと彼のマシン



お得な前売券好評発売中

●前売り観戦券(3日間通し券/税込み)
大人/7,000円 中・高校生/3,500円
※3才~小学生の方は遊園地入園料800円でご観戦いただけます。

●指定席券(2日間通し券/税込み)

サンダーストレート	S1(グラウンドスタンド中央)	8,000円
	S2(グラウンドスタンド第1コーナー寄り)	5,000円
	A(グラウンドスタンド最終コーナー寄り)	2,000円
ファーストターン	D(第1コーナースタンド)	2,000円
	E(第2コーナースタンド)	5,000円
ファイナルターン	B1(最終コーナースタンド)	2,000円
	B2(最終コーナースタンドシケイン寄り)	2,000円

※別途観戦券が必要です。※座席指定は11月24日(日)決勝のみ有効。11月23日(土)予選日はエリア指定となります。※指定席券は3才の方から必要です。

- 公認: FIA/JAF/NASCAR
- 主催: 株式会社鈴鹿サーキットランド/SMSC/M.O.S.C.
- 後援: アメリカ大使館/三重県/鈴鹿市/鈴鹿商工会議所/鈴鹿市観光協会/日本貿易振興会(ジェトロ)
- 会場: 鈴鹿サーキット 東コース

手軽に買える! チケットご購入方法は2通り

▼ご購入方法1(クレジットカード引き落とし・代金引き換えコレクト便)

お申し込み後2~3日でご自宅まで宅急便でお届けします。(別途下記の送料が必要です)

発売期間: '96年6月1日~11月16日

■電話で: 0593-70-4386 受付時間: 10:00~17:00(6月11日~6月14日を除く発売期間中)

■FAXで: 0593-70-4382 受付期間: 発売期間中24時間

●お電話では下記をお伺いいたします。●FAXでは下記をご記入いただくか、専用申し込み用紙をご利用ください。専用申し込み用紙は鈴鹿サーキットファクシミリサービス 0592-23-7777 ボックスNo.3045#で取り出せます。

●ご希望の観戦券、指定席券の種類と枚数 ●氏名(ふりがな) ●ご自宅の郵便番号、住所、電話番号 ●昼間連絡可能な電話番号

●精算方法 a)クレジットカード引き落とし(チケット代金と送料600円) b)代金引き換えコレクト便(チケット代金と送料1000円)

●クレジットカード引き落としの場合: カード会社・カード番号・有効期限

ご使用いただけるカード

◆シオンカード ◆VISA ◆Master Card ◆JCB ◆AMERICAN EXPRESS ◆Diners Club International

ご注意

●S1指定席はFAXでのお申し込みはできません。●チケットのご購入は、お1人様10枚までとさせていただきます。●ご購入後のキャンセル、変更はお受けできません。●先着順販売のためご希望のチケットをご購入いただけない場合があります。この場合FAXでお申し込みの方には、あらかじめご案内させていただきます。

▼ご購入方法2(オンラインチケットなどの窓口販売)

発売期間: '96年6月1日~11月23日

●チケットセゾン ●チケットぴあ ●丸井チケットぴあ ●関西プレイガイド協会 ●ミリオンチケットセンター(ミリオンカード会員専用)名古屋052-243-6507 大阪06-231-2370 東京03-3265-7194 ●ローンチケット、タイエー(OMC店) ●ファミリーマート電話予約はチケットセゾン ●CNプレイガイド ●JR東海旅行センター、JR東海ツアーズ ●am/pm、MINI STOP 03-5802-9999 ★全国主要プレイガイド ★旅行代理店(JTB、近畿日本ツーリスト、東急観光、日本旅行、名鉄観光) ★鈴鹿サーキット各営業所 ★ホンダウエルカムプラザ青山 ●鈴鹿サーキットチケットセンター

※★印は観戦券のみのお取り扱いとなります。

レースチケットについてのお問い合わせ
鈴鹿サーキットチケットセンター
0593-78-1111(代)

SUZUKA CIRCUIT

CYCLE SOUNDS

SINCE
1982



「観たい」「知りたい」「参加したい」
サイクルサウンズは、あなたの「たい」に応えます。



サイ
クル
サ
ウ
ン
ズ
だ
さ
い
い
!!

ミニバイクから世界GPまで、

ロードレース総合誌「サイクルサウンズ」は、
全国書店にて毎月1日発売です。◎650円（税込）

since 1896
100th
創刊100周年

山海堂

〒113 東京都文京区本郷5-5-18 TEL.03-3816-1617 FAX.03-3816-1619

BRIDGESTONE



ダリツプ・ダリツプ・ダリツプ。



全国のサーキットの、さまざまなコーナーでそのグリップ力をいかに発揮している
BT-90 RADIAL。
そのグリップ性能の高さも、そのグリップ持続性も、
すべては「V」のために。

RACE TYPE
BT-90 RADIAL

Front

Rear



BATTIAX
from BRIDGESTONE MOTORSPORT

ENTRY LIST

SUPER BIKE

参加台数79台 決勝出走台数44台 決勝スタート 14:00 35周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
1	A	青木 拓磨 TAKUMA AOKI	22	群馬	ホンダ RVF/RC45	TEAM HRC		
2	B	武石 伸也 SHI'NYA TAKEISHI	28	北海道	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
3	A	藤原 克昭 KATSUAKI FUJIWARA	21	静岡	スズキ GSX-R750	ラッキーストライク・スズキ		
5	B	藤原 儀彦 NORIHIKO FUJIWARA	29	静岡	ヤマハ YZF750	Y.R.T.		
6	A	柳川 明 AKIRA YANAGAWA	24	静岡	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
7	B	北川 圭一 KEIICHI KITAGAWA	29	静岡	スズキ GSX-R750	ラッキーストライク・スズキ		
8	A	生見 友希雄 YUKIO NUKUMI	30	東京	ドゥカティ 916	チーム・ファンデーション		
9	B	梁 明 AKIRA RYŌ	28	兵庫	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
10	A	芳賀 紀行 NORIYUKI HAGA	21	愛知	ヤマハ YZF750 SP	テクノモーターエンジニアリング		
12	B	高橋 勝義 KATSUYOSHI TAKAHASHI	29	福島	ヤマハ YZF750 SP	いわたトンボRT		
13	A	長谷川 克憲 KATSUNORI HASEGAWA	27	千葉	ヤマハ YZF750 SP	HKS		
14	B	鶴田 竜二 RYŪJI TSURUTA	30	愛知	カワサキ ZX-7RR	チームイワキK'sガレージ		
16	A	金安 智彦 TOMOHIKO KANEYASU	34	新潟	ホンダ RVF/RC45	Team 桜井ホンダ		
17	B	小林 敏也 TOSHIYA KOBAYASHI	29	滋賀	ホンダ RVF/RC45	TEAMELAN&RGNIWA		
19	A	芹沢 太麻樹 TAMAKI SERIZAWA	23	埼玉	スズキ GSX-R750	ヨシムラ・スズキ・GP1プラス		
21	B	新井 秀也 SHŪYA ARAI	30	愛知	ホンダ RVF/RC45	モリワキレーシング		
22	A	高橋 芳延 YOSHINOBU TAKAHASHI	28	兵庫	カワサキ ZX-7RR	アートネイチャーDDBOYS		
23	B	西嶋 修 OSAMU NISHIJIMA	25	大阪	カワサキ ZXR750R	BEET IGOL RT		
26	A	和泉 美智夫 MICHIO IZUMI	28	大阪	ホンダ RVF/RC45	モリワキレーシング		
29	B	賀来 聡介 TOSHIYUKI KAKU	25	東京	ヤマハ YZF750 SP	PJ1&スガヤスピード		
36	A	泉名 英男 HIDEO SENMYŌ	30	埼玉	ホンダ RVF/RC45	向陽会ドリームレーシングチーム		
37	B	筒井 秀明 HIDEAKI TSUTSUI	29	埼玉	カワサキ ZXR750R	RS-ITOH		
40	A	鎌田 学 MANABU KAMADA	25	三重	ホンダ RVF/RC45	Team 桜井ホンダ		
41	B	宗和 孝宏 TAKAHIRO SŌWA	30	兵庫	ドゥカティ 916	Team SOHWA		
42	A	多賀 雄一郎 YŪICHIRO TAGA	25	兵庫	ホンダ RVF/RC45	TEAMASA		
43	B	井村 和弘 KAZUHIRO IMURA	24	京都	カワサキ ZXR750R	カストロール・チームボンバー		
44	A	深見 貴広 TAKAHIRO FUKAMI	25	愛知	ヤマハ YZF750 SP	クレバーウルフレーシングチーム		

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
45	B	武田 雄一 YŪICHI TAKEDA	18	埼玉	ホンダ RVF/RC45	TEAM HRC		
46	A	富田 信道 NOBUMICHI TOMITA	28	栃木	ホンダ RVF/RC45	オートテクニックスポーツ		
47	B	佐藤 清和 KIYOKAZU SATŌ	29	栃木	ホンダ RVF/RC45	オートテクニックスポーツ		
48	A	西村 慶太 KEITA NISHIMURA	31	埼玉	ホンダ RVF/RC45	むさしの会 狭山レーシング		
49	B	佐々木 清士 KIYOSHI SASAKI	25	三重	カワサキ ZXR750R	SASAKI RACING		
50	A	松原 泉 IZUMI MATSUBARA	27	埼玉	カワサキ ZXR750R	RS-ITOH&酒巻クリニック		
51	B	サイモン・クラファ SIMON CRAFAR	27		カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
52	A	時永 真 MAKOTO TOKINAGA	24	静岡	ヤマハ YZF750 SP	TEAMモトスポーツ鈴鹿IRF		
53	B	小林 裕樹 HIROKI KOBAYASHI	27	大阪	スズキ GSX-R750 SP	GARフィールド&タキオンBP		
54	A	西田 浩工 HIROTADA NISHIDA	29	北海道	ホンダ RVF/RC45	くっちゃん未来21チームエラン		
55	B	佐竹 祥語 SHŌGŌ SATAKE	26	京都	カワサキ ZXR750R	京都スーパースポーツ ☆		
56	A	秋吉 弘亮 KŌSUKE AKIYOSHI	21	静岡	スズキ GSX-R750	チームギャツビーレーシング		
57	B	中谷 真也 SHIN'YA NAKATANI	25	兵庫	カワサキ ZXR750R	チーム阪神ライディングスクール		
58	A	田代 光輝 MITSUTERU TASHIRO	26	福岡	ヤマハ YZF750 SP	YSP博多+ライトスポーツ		
59	B	山中 正之 MASAYUKI YAMANAKA	27	神奈川	ホンダ RVF/RC45	レーシングチーム ハニービー		
60	A	竹見 升吾 SHŌGŌ TAKEMI	33	大阪	ヤマハ YZF750 SP	クレバーウルフレーシングチーム		
61	B	佐々木 栄司 EIJI SASAKI	29	静岡	スズキ GSX-R750	JAJA TEAM タイタン		
62	A	松島 裕 YŪ MATSUSHIMA	31	神奈川	ヤマハ YZF750 SP	R.T.KENTAUROS		
63	B	高橋 徹 TŌRU TAKAHASHI	24	埼玉	ヤマハ YZF750 SP	スーパービルドM・オザワR&D		
64	A	中村 保 TAMOTSU NAKAMURA	25	東京	ヤマハ YZF750 SP	TeamPRIZE		
65	B	塚本 正章 MASAOKI TSUKAMOTO	25	熊本	ホンダ RVF/RC45	HONDA熊本レーシング		
66	A	中村 健一郎 KEN'ICHIRO NAKAMURA	27	茨城	ホンダ RVF/RC45	TEAM CBX		
67	B	尾高 弘訓 HIRONORI ODAKA	32	神奈川	ヤマハ YZF750 SP	TeamPRIZE		
68	A	川瀬 裕昌 HIROAKI KAWASE	27	大阪	スズキ GSX-R750	JAJA/KICHO&チェイス		
69	B	國松 俊樹 TOSHIKI KUNIMATSU	30	滋賀	ホンダ RVF/RC45	チーム ヨシハル		
70	A	福田 照男 TERUO FUKUDA	39	東京	ホンダ RVF/RC45	TEAMVITALSPIRIT		
71	B	北尾 公二 KŌJI KITAO	30	兵庫	ホンダ RVF/RC45	ライダーズクラブ キタノ RT		

ENTRY LIST

SUPER BIKE

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
72	A	高嶋 靖生 YASUO TAKASHIMA	31	兵庫	カワサキ ZXR750R	BEET IGOL RT		
73	B	河村 康成 YASUNARI KAWAMURA	27	熊本	ホンダ RVF/RC45	HONDA熊本レーシング		
74	A	鈴木 孝之 TAKAYUKI SUZUKI	29	栃木	ホンダ RVF/RC45	TEAM CBX&PGR		
75	B	青柳 幸広 YUKIHIRO AOYANAGI	24	大阪	ヤマハ YZF750 SP	SWIFT・R・MOTUL		
76	A	鈴木 誠 MAKOTO SUZUKI	31	静岡	ドゥカティ 916	TEAM・KATAYAMA		
77	B	谷口 仁 HITOSHI TANIGUCHI	32	栃木	ヤマハ YZF750 SP	チーム・ビルテック		
78	A	原田 洋孝 HIROTAKE HARADA	25	兵庫	カワサキ ZXR750R	KF LIME GREEN		
79	B	山田 達也 TATSUYA YAMADA	30	埼玉	ホンダ RVF/RC45	TRP team YAMADA		
80	A	徳野 政樹 MASAKI TOKUNO	43	大阪	ホンダ RVF/RC45	TEAMVITALSPIRIT		
81	B	大崎 隆一 RYUICHI ŌSAKI	28	千葉	ホンダ RVF/RC45	RT韋駄天&ZZY		
82	A	川中 憲和 NORIKAZU KAWANAKA	30	大阪	ホンダ RVF/RC45	チーム GAD		
83	B	仁賀 基文 MOTOFUMI NIGA	24	京都	カワサキ ZX-7RR	グリーンC京都スーパースポーツ		
84	A	高宮 義文 YOSHIFUMI TAKAMIYA	35	岡山	カワサキ ZXR750R	チームマッドライダーズ		
85	B	東海林 真 MAKOTO SHŌJI	30	東京	ホンダ VFR750R	Team30'S		
86	A	大石 透 TŌRU ŌISHI	30	東京	カワサキ ZXR750R	TEAM Dr.SUDA		
87	B	成松 征雄 YUKIO NARIMATSU	29	愛媛	カワサキ ZXR750R	新・くるしまどつく		
88	A	鈴木 徹 TŌRU SUZUKI	29	大阪	カワサキ ZXR750R	タトゥーレーシング+GMD		
89	B	新谷 聡美 SATOMI SHINTANI	33	山口	スズキ GSX-R750	SBSライダーズキャビン・RT		
90	A	安孫子 勝利 KATSUTOSHI ABIKO	35	北海道	ホンダ RVF/RC45	NISSEKI&チームにゃろめ		
91	B	清水 光則 MITSUNORI SHIMIZU	30	埼玉	ヤマハ YZF750 SP	チーム ビルラック		
92	A	徳永 雅喜 MASAKI TOKUNAGA	28	兵庫	ドゥカティ 888	チーム FUKUI		
93	B	中井 直道 NAOMICHI NAKAI	31	大阪	ホンダ RVF/RC45	TEAM YOSHIHARU		
94	A	森 剛 TSUYOSHI MORI	22	東京	ヤマハ YZF750 SP	Pentagram&Agip		
96	A	井筒 仁康 HITOYASU IZUTSU	25	千葉	ドゥカティ 916	チーム・ファンデーション		
831	B	神谷 登 NOBORU KAMIYA	27	神奈川	ホンダ RVF/RC45	レディオ湘南 & 桜井ホンダ		

RFC会員特典概要

- ①1996年全日本選手権シリーズ全11戦共通バス（観戦券+バドックバス）進呈
※特別会員のみ（限定100名）
特別会員にのみ発行されるスペシャルメンバーズカードは、1996年全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦において有効で、このカードを提示すれば、一部エリアを除いて観戦およびバドックエリアまで入場が可能。
- ②観戦券・バドックバスの割引販売
1996年の全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦において、RFC会員カードを提示すると、観戦料金が当日料金の30%OFF、バドックバスが当日料金の10%OFFで割引購入可能。会員1名様に付き1枚のみ有効。また、鈴鹿日本GP・鈴鹿8耐・WSB(SUGO)の各世界選手権の観戦券・バドックバス等も割引販売がある。
- ③ビットウオーク開催サーキットで、参加無料
- ④バドッククラブのご利用
- ⑤入会記念品進呈
- ⑥大会来場記念品進呈（先着50名様）
- ⑦会報の発行
- ⑧レース情報提供サービス（有料）
- ⑨サーキット体験走行などのイベントへの優待参加
- ⑩宿泊観戦バックへの優待割引参加
- ⑪オリジナルグッズの割引購入
- ⑫各サーキットの付帯設備における割引等の特典

RFCイベントとは？ その一例をご紹介します

●サーキット体験走行

レース終了後のサーキットを全日本ライダーが先導してのサーキット体験走行する貴重な機会!!



●トークショーイベント

昼のインタビューに行っているライダーのトークショー。コース上の特設ステージなどで開催!!

●ライダーとの交流イベント

ライダーと身近にコミュニケーションできる交流イベントも開催。サーキットによって土曜日または日曜日の開催となります。

ロードレースファンクラブ

ビットウオークが無料!!

観戦券・バドックバスが大幅割引!!

全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦

全日本ロードレース選手権シリーズをファンが一体になって盛り上げながら、全日本ライダーとコミュニケーションしたり、サーキットライフも思いっきり楽しんでしまおうというのが、RFCロードレースファンクラブのコンセプト。MFJプロモーション実行委員会が運営主体となり、全日本ロード開催6サーキット、2輪メーカー4社、国際ライダーの統括団体であるRMA選手会、そしてライダーたちが一体となって盛り上げようとしているから、全日本ロードをもっと楽しむための特典が満載!!

RFC入会方法

- RFC年会費（入会金は不要です）
RFC一般会員/4,000円
RFC特別会員/30,000円（限定100名）
★1996年の特別会員の入会受付は、定数に達したため終了しました。ご了承願います。
- 申込方法（二通りあります）
住所、氏名、「RFC入会希望」とお書きいただき、RFC事務局にお送り下さい。折り返し入会申込書を送付いたします。電話・FAXでも受け付けます。

全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦にて設置されるRFCロードレースファンクラブのブースでも受付を行っています。サーキットで入会したい人は、ブースにて入会手続きをして下さい。この場合、入会したその場でカードの発行を行いませんので、入会と同時に特典が受けられます。
- 申込・お問い合わせ先
RFC事務局（アバンテック ジャパン、INC.内）
名古屋市西区則武新町4-4-19
SG名古屋ビル5F 〒451
☎. 052-565-0501
FAX. 052-565-0502

入会受付 イベント参加受付 グランドスタンド 付近のブースにて 実施中!!

RFC JAPAN
ROAD RACE
OFFICIAL F.C
MemberShip

●お問い合わせは...
RFC事務局
名古屋市西区則武新町4-4-19 〒451
☎.052-565-0501 FAX.052-565-0502

MFJ
MOTORCYCLE FEDERATION OF JAPAN

SUPERBIKE
JAPAN

ENTRY LIST

GP250

参加台数78台 決勝出走台数44台 決勝スタート 11:50 17周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
1	A	沼田 憲保 NORIYASU NUMATA	30	静岡	スズキ RGV-Γ250	ラッキーストライク・スズキ		
5	B	加藤 大治郎 DAJIRO KATŌ	19	埼玉	ホンダ NSR250	Team高武RSC		
6	A	芳賀 健輔 KENSUKE HAGA	23	愛知	ヤマハ TZ250	Y.R.T.		
7	B	森兼 正明 MASAOKI MORIKANE	28	埼玉	ホンダ RS250R	ENDURANCE		
9	A	喜久川 光 HIKARU KIKUGAWA	28	広島	ヤマハ TZ250	コンパイルレーシングヤマハ		
10	B	前田 誠司 SEIJI MAEDA	25	兵庫	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
11	A	玉田 誠 MAKOTO TAMADA	19	愛媛	ホンダ RS250R	Team高武RSC		
12	B	小倉 直人 NAOTO OGURA	27	新潟	ヤマハ TZ250	IKKO RACING		
13	A	浜口 俊之 TOSHIYUKI HAMAGUCHI	26	愛知	ホンダ RS250R	TEAM NUTS/&コウサカ		
15	B	松戸 直樹 NAOKI MATSUDO	22	千葉	ヤマハ TZ250	コンパイルレーシングヤマハ		
16	A	関口 太郎 TARŌ SEKIGUCHI	20	東京	ヤマハ TZ250	YESSレーシングチーム		
18	B	亀谷 長純 CHŌJUN KAMEYA	19	埼玉	スズキ RGV-Γ250	JAJA.RACINGTEAM		
19	A	野田 弘樹 HIROKI NODA	26	奈良	ホンダ RS250R	HIRYU RACING		
20	B	原田 伸也 SHIN'YA HARADA	24	千葉	ヤマハ TZ250	SP忠男レーシングチーム		
21	A	高橋 司 TSUKASA TAKAHASHI	27	福島	ヤマハ TZ250	チームハイブリッジ		
22	B	山川 智之 TOMOYUKI YAMAKAWA	28	宮城	ホンダ RS250R	TOYO-TOWNS-RT		
25	A	榊原 礼視 REIJI SAKAKIBARA	25	大阪	ヤマハ TZ250	チームモトスペースTODAYA		
26	B	田村 浩司 KŌJI TAMURA	25	京都	ホンダ RS250R	テクニカルスポーツ		
27	A	仲地 万寿夫 MASUJO NAKACHI	26	東京	ホンダ RS250R	モトバム レオス レーシング		
28	B	武山 祐介 YŪSUKE TAKEYAMA	24	宮城	ヤマハ TZ250	NISSEKI&森のくまさん		
32	A	及川 誠人 SEIJIN OIKAWA	25	神奈川	ヤマハ TZ250	スポーツライダー&KISSRT		
33	B	中川 直史 NAOSHI NAKAGAWA	23	三重	ホンダ RS250R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム		
36	A	本間 利彦 TOSHIHIKO HONMA	29	愛知	ヤマハ TZ250	Y.R.T.		
37	B	中岡 光輝 MITSUTERU NAKAOKA	27	兵庫	ホンダ RS250R	RTペンギン&たんとたんと		
38	A	水谷 茂 SHIGERU MIZUTANI	28	東京	ヤマハ TZ250	PLUS&&M-PROJECT		
39	B	竹内 章徳 AKINORI TAKEUCHI	25	愛知	ヤマハ TZ250	ブレイメイトレーシング		
40	A	加藤 達也 TATSUYA KATŌ	22	愛知	ヤマハ TZ250	ブレイメイト		
41	B	加賀山 幸男 YUKIO KAGAYAMA	22	静岡	スズキ RGV-Γ250	JAJA.RACINGTEAM		
42	A	野村 昌広 MASAHIRO NOMURA	22	兵庫	ホンダ RS250R	シリウスレーシングTWE,83		
43	B	佐藤 雅彦 MASAHIKO SATŌ	26	北海道	ヤマハ TZ250	NISSEKI&チームにゃろめ		
44	A	甲府方 周二 SHŪJI KOFUKATA	23	東京	ヤマハ TZ250	エキスパートレーシング		
47	B	宮田 剛志 KŌJI MIYATA	28	三重	ヤマハ TZ250	ブレイメイトレーシング		
48	A	増澤 俊哉 TOSHIYA MASUZAWA	24	三重	ホンダ RS250R	チーム・トクノ		
50	B	中山 睦生 MUTSUO NAKAYAMA	24	滋賀	ホンダ RS250R			
51	A	匹田 禎智 SADANORI HIKITA	33	埼玉	アプリリア RSV	チームボスコ・モト&デイトナ		
52	B	林 祐孝 MASATAKA HAYASHI	26	愛知	ヤマハ TZ250	R.T.YSP刈谷		
53	A	石川 智之 SATOSHI ISHIKAWA	30	静岡	ホンダ RS250R	ホンダ浜友会 浜松エスカルゴ		
54	B	村田 芳成 YOSHINARI MURATA	26	大阪	ヤマハ TZ250	VEGA SPORTS GK		
55	A	吉岡 直毅 NAOKI YOSHIOKA	26	静岡	ホンダ RS250R	ホンダ浜友会浜松エスカルゴ		

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
56	B	石井 孝之 TAKAYUKI ISHII	26	千葉	ヤマハ TZ250	M'-PROJECT/		
57	A	安斎 勝章 KATSUAKI ANZAI	25	福島	ヤマハ TZ250	チームハイブリッジ		
58	B	吉田 寛 HIROSHI YOSHIDA	23	鳥取	ホンダ RS250R	チームトクノ・ピースリー		
59	A	高津戸 義彦 YOSHIHIKO TAKATSUTO	23	北海道	ホンダ RS250R	チームトクノ		
60	B	伊 昌憲 MASANORI YUN	23	愛知	ホンダ RS250R	TeaM 花菱&KOHSAKA		
61	A	田中 大輔 DAISUKE TANAKA	26	愛知	ヤマハ TZ250	TEAM YDS YAMAHA		
62	B	蟹江 伸年 NOBUTOSHI KANIE	29	三重	ホンダ RS250R	スクーデリア オクムラ		
63	A	大西 明 AKIRA ONISHI	30	大阪	ヤマハ TZ250	大阪SAM・RT・カストロール		
64	B	川上 誠 MAKOTO KAWAKAMI	27	大阪	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
65	A	薄井 誠 MAKOTO USUI	29	東京	ホンダ RS250R	レーシングチーム タクミ		
66	B	宮崎 裕二 YUJI MIYAZAKI	27	兵庫	ホンダ RS250R	ライダーズクラブキタノRT		
67	A	門田 祐二 YUJI KADOTA	26	福岡	ヤマハ TZ250	BE EX		
68	B	大場 和樹 KAZUKI OBA	25	宮城	ヤマハ TZ250	VAN-HOUSE & COM		
69	A	前田 剛 TSUYOSHI MAEDA	35	奈良	ヤマハ TZ250	クーベ レーシングプロジェクト		
70	B	佐々木 裕昌 HIROMASA SASAKI	29	神奈川	ヤマハ TZ250	ミクニ クラブベントイスRP		
71	A	長岡 俊宏 TOSHIHIRO NAGAOKA	25	兵庫	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
72	B	高橋 孝浩 TAKAHIRO TAKAHASHI	24	東京	ヤマハ TZ250			
73	A	政田 征一 SEIICHI MASADA	22	大阪	ホンダ RS250R	丸高KICHO-RACING/		
74	B	小谷田 欽章 YOSHIAKI KOYATA	25	東京	ホンダ RS250R	OXレーシングチーム&石森石油		
75	A	加藤 健治 KENJI KATŌ	23	東京	ホンダ WM03B	With me P・R・T		
76	B	五陸 泰彦 YASUHIKO GORIKU	29	静岡	ヤマハ TZ250	TEAMモトスポーツ鈴鹿IRF		
77	A	福山 英済 HIDEAKI FUKUYAMA	27	大阪	ヤマハ TZ250			
78	B	青木 淳次 JUNJI AOKI	28	長野	ホンダ RS250R	スーパービルド マキシマムRT		
79	A	小島 剛 TSUYOSHI KOJIMA	27	神奈川	ヤマハ TZ250	ミクニ クラブベントイスRP		
80	B	野澤 正 TADASHI NOZAWA	33	鳥取	ホンダ RS250R	RTパドックスリー野澤組		
81	A	森 修一 SHŪICHI MORI	25	愛知	ヤマハ TZ250	TEAM YDS YAMAHA		
82	B	千葉 勲 ISAO CHIBA	29	大阪	ヤマハ TZ250	チームフライングドルフィン		
83	A	浅井 一朗 ICHIRŌ ASAI	22	宮城	ヤマハ TZ250			
84	B	山下 裕介 YŪSUKE YAMASHITA	19	静岡	ヤマハ TZ250	☆Black Panther☆		
85	A	小見山 昌之 MASAYUKI KOMIYAMA	28	岡山	ホンダ RS250R	NAG・RACINGTEAM		
86	B	宮地 泰輔 TAISUKE MIYAJI	27	東京	ヤマハ TZ250	PAL レーシング ミクニ		
90	A	福澤 巖 IWAO FUKUZAWA	28	東京	ホンダ RS250R			
91	B	末吉 真也 SHIN'YA SUEYOSHI	25	三重	ヤマハ TZ250	チーム モトスペース		
92	A	田村 則夫 NORIO TAMURA	29	神奈川	ヤマハ TZ250	ツツミモーターズ 2F		
93	B	伊藤 喜通 YOSHIYASU ITŌ	31	愛知	ヤマハ TZ250	スーパーキャットRT		
95	A	松尾 清孝 KIYOTAKA MATSUDO	27	愛知	ヤマハ TZ250	TEAM.P・BOX		
97	B	内川 正三 SHŌZŌ UCHIKAWA	29	愛知	ヤマハ TZ250			
99	A	斉藤 憲治 KENJI SAITŌ	28	神奈川	ヤマハ TZ250	TOSH-TEC		
100	B	秋山 恵利香 ERIKA AKIYAMA	24	静岡	ホンダ RS250R	Team IVY		

ENTRY LIST

GP125

参加台数84台 決勝出走台数44台 決勝スタート 10:30 15周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
2	A	東 雅雄 MASAO AZUMA	25	高知	ホンダ RS125R	チームフジワラBP		
4	B	高尾 和弘 KAZUHIRO TAKAO	28	愛知	ホンダ RS125R	カストロールTEAMハルクプロ		
5	A	菅谷 慎一 SHIN'ICHI SUGAYA	23	東京	ホンダ RS125R	ALICE & Calbee		
6	B	小澤 敏明 TOSHIKI OZAWA	26	埼玉	ホンダ RS125R	ENDURANCE&彩光		
7	A	小野 真央 MASAFUMI ONO	24	栃木	ホンダ RS125R	カストロールTEAMハルクプロ		
8	B	上江洲 克次 KATSUJI UEZU	21	愛知	ヤマハ TZ125	TEAM伸興通産JRRacing		
9	A	藤岡 祐三 YŪZŌ FUJIOKA	23	愛媛	ホンダ RS125R	F.C.C.テクニカルスポーツ		
10	B	佐藤 慎也 SHIN'YA SATŌ	25	神奈川	ホンダ RS125R	ライダーズサロン 横浜		
11	A	金井 雅明 MASAOKI KANAI	27	茨城	ホンダ RS125R	Fine Racing		
12	B	中野 真矢 SHIN'YA NAKANO	18	千葉	ヤマハ TZ125	SP忠男レーシングチーム		
13	A	大塚 勇二 YŪJI ŌTSUKA	26	神奈川	ホンダ RS125R	TRR-PENSION☆OZ		
14	B	大崎 誠之 NOBUYUKI ŌSAKI	25	福岡	ホンダ RS125R	テクノギルドレーシングチーム		
15	A	岡村 崇規 TAKANORI OKAMURA	25	三重	ホンダ RS125R	チームフジワラBP		
16	B	久保 和寛 KAZUHIRO KUBO	24	京都	ホンダ RS125R	Jhaレーシング		
19	A	早原 邦顕 KUNIAKI HAYAHARA	26	三重	ホンダ RS125R			
22	B	天野 邦博 KUNIHIRO AMANO	26	東京	ホンダ RS125R	チーム アクタス		
23	A	渡部 伸 SHIN WATANABE	25	埼玉	ホンダ RS125R	ホンダ ブルーヘルメットMSC		
26	B	山下 祐 YŪ YAMASHITA	28	神奈川	ホンダ RS125R	サムシステム, M'-PRO/		
27	A	上野 秀昭 HIDEAKI UENO	29	愛知	ホンダ RS125R	チーム カツラガワ		
28	B	西山 康典 YASUNORI NISHIYAMA	23	宮城	ホンダ RS125R	クルーズレーシングチーム		
29	A	秋田 貴志 TAKASHI AKITA	22	神奈川	ホンダ RS125R	ALICE & Calbee		
30	B	菊池 寛幸 HIROYUKI KIKUCHI	30	京都	ホンダ RS125R	チームウイリー		
31	A	鶴飼 孝徳 TAKANORI UKAI	26	三重	ホンダ RS125R	RGNiwa-ペンション☆OZ		
32	B	稲毛田 潤 JUN INAGEDA	29	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky&Able com.		
34	A	永田 健二 KENJI NAGATA	26	三重	ホンダ RS125R	TEAMカツラガワ		
36	B	酒井 大作 DAISAKU SAKAI	14	大阪	ホンダ RS125R	TEAM SRS・J		
38	A	水野 生久 IKUHISA MIZUNO	27	愛知	ヤマハ TZ125	Support Racing		
40	B	永塚 良典 YOSHINORI NAGATSUKA	27	茨城	ホンダ RS125R	TEAM・i-FACTORY		
41	A	松永 弘志 HIROSHI MATSUNAGA	22	千葉	ホンダ RS125R	テクニカルスピード		
43	B	興梠 義則 YOSHINORI KOROGI	23	三重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム		
44	A	伊東 哲 SATOSHI ITŌ	28	東京	ホンダ RS125R	RACING SUPPLY		
45	B	榑原 浩二 KŌJI SAKAKIBARA	27	愛知	ヤマハ TZ125	★SupportRacing★		
46	A	坂西 博光 HIROMITSU SAKANISHI	26	三重	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
48	B	小林 正義 MASAYOSHI KOBAYASHI	26	千葉	ホンダ RS125R			
49	A	澤田 令 REI SAWADA	18	愛知	ホンダ RS125R	TEAM SRS・J		
50	B	水戸 健一 KEN'ICHI MITO	27	愛知	ヤマハ TZ125	IKKO RACING		
51	A	鈴木 健 KEN SUZUKI	25	埼玉	ヤマハ TZ125	ガレージ サイトウ		
52	B	松井 剛 TSUYOSHI MATSUI	27	東京	ホンダ RS125R	M-TUNE Racing		
53	A	金沢 亮 RYŌ KANAZAWA	17	福岡	ヤマハ TZ125	RSS原口&KKK		
54	B	羽鳥 誠 MAKOTO HATORI	24	群馬	ホンダ RS125R	TRR-TeamAKAGI		
55	A	杉野 英史 HIDEFUMI SUGINO	26	三重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシング		
56	B	阪口 賢一 KEN'ICHI SAKAGUCHI	30	大阪	ホンダ RS125R	BadBoyRacing		

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
57	A	佐々木 洋一 YÓICHI SASAKI	24	大阪	ホンダ RS125R	Tブリズムハウス&テクノギルド		
58	B	依田 裕章 HIROAKI YODA	24	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky&Able com.		
59	A	井手 敏男 TOSHIO ITE	25	大阪	ホンダ RS125R	SPIとヘアーサロン井手		
60	B	安那 宏昌 HIROMASA YASUNA	25	広島	ホンダ RS125R	モトワークス福山		
61	A	浦尾 隆弘 TAKAHIRO URAO	23	東京	ホンダ RS125R	サンエイレーシング&フォルザ		
62	B	笹島 義久 YOSHIHISA SASAJIMA	28	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky&Able com.		
63	A	岡田 純一 JUN'ICHI OKADA	21	京都	ホンダ RS125R	Jhaレーシング		
64	B	細谷 陽一 YÓICHI HOSOYA	24	三重	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
65	A	城戸 謙二 KENJI KIDO	19	福岡	ヤマハ TZ125	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
66	B	亀田 勝太 MASATAKA KAMEDA	24	栃木	ホンダ RS125R	TEAM i-F&PSR		
67	A	熊谷 孝 TAKASHI KUMAGAI	22	京都	ホンダ RS125R	S.Rミニナム☆クシタニ京都♡		
68	B	酒井 博志 HIROSHI SAKAI	16	大阪	ホンダ RS125R	TEAM SRS・J		
69	A	荒木 満 MITSURU ARAKI	29	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky& ABLE COM		
70	B	片平 光浩 MITSUHIRO KATAHIRA	32	千葉	ホンダ RS125R	RS勅斗雲と五十歩百歩にPIT		
71	A	岡田 栄治 EIJI OKADA	27	福岡	ヤマハ TZ125	RSS☆SHOWAカストロール		
73	B	大引 久二博 KUNIHRO ÔBIKI	25	大阪	ホンダ RS125R	モトイネレーシング&ヨシイR		
74	A	谷 信行 NOBUYUKI TANI	26	大阪	ヤマハ TZ125	ヒットマンRC甲子園		
75	B	近藤 嘉浩 YOSHIHIRO KONDÔ	26	京都	ホンダ RS125R	TEAMプラスワン&久保製作所		
76	A	大橋 賢 KEN ÔHASHI	22	三重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ		
77	B	小寺 淳二 JUNJI KODERA	23	岐阜	ヤマハ TZ125	TEAM伸興通産JRRacing		
78	A	岩村 龍司 RYŪJI IWAMURA	19	三重	ヤマハ TZ125	TEAM伸興通産JRRacing		
79	B	大石 吉孝 YOSHITAKA ÔISHI	25	三重	ホンダ RS125R	チームトクノ		
80	A	竹内 啓之 HIROYUKI TAKEUCHI	21	岡山	ヤマハ TZ125	YSP津山レーシングチーム		
82	B	橋本 靖雄 YASUO HASHIMOTO	23	山梨	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
83	A	西沢 将弘 MASAHIRO NISHIZAWA	23	埼玉	ホンダ RS125R	ENDURANCE		
84	B	橋本 一徳 KAZUNORI HASHIMOTO	24	岡山	ヤマハ TZ125	YSP津山レーシングチーム		
88	A	武藤 しんじ SHINJI MUTÔ	30	愛知	ホンダ RS125R	Team KOHSAKA		
89	B	柳 昇一 SHŌICHI YANAGI	28	愛知	ホンダ RS125R	TEAM・P.BOX		
90	A	松浦 光利 MITSUTOSHI MATSUURA	25	奈良	ヤマハ TZ125	YSP津山レーシングチーム		
91	B	阿部 高嗣 KÔJI ABE	26	愛媛	ホンダ RS125R	伯方島レーシング		
94	A	村上 妙子 TAEKO MURAKAMI	19	静岡	ヤマハ TZ125	TEAMモトスポーツ&鈴覚		
96	B	寺本 幸司 KÔJI TERAMOTO	24	大阪	ホンダ RS125R	プロダクト・スポーツ&フジワラ		
100	A	山田 実 MINORU YAMADA	30	千葉	ホンダ RS125R	Fine Racing		
101	B	太田 英治 EIJI ÔTA	29	熊本	ホンダRS125	熊本レーシングチーム		
102	A	濱井 則英 NORIHIDE HAMAI	23	京都	ホンダ RS125R	チームKan's		
103	B	古橋 徹 TÔRU FURUHASHI	23	埼玉	ホンダ RS125R			
104	A	山中 信幸 NOBUYUKI YAMANAKA	28	愛知	ヤマハ TZ125	TEAM YDS YAMAHA		
106	B	中川 実 MINORU NAKAGAWA	27	千葉	ホンダ RS125R	モトバムレオスレーシング		
107	A	星野 知也 TOMOYA HOSHINO	23	神奈川	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ関東		
109	B	仲城 英幸 HIDEYUKI NAKAJÔ	27	奈良	ホンダ RS125R	Jhaレーシング		
112	A	桜井 晋吾 SHINGO SAKURAI	21	神奈川	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ関東		
114	B	山下 一彰 KAZUAKI YAMASHITA	32	静岡	ホンダ RS125R	M'-PROJECT		

ENTRY LIST

NK4-II

参加台数136台 決勝出走台数48台 決勝スタート 16:15 12周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	A	西村 実佐郎 MISA O NISHIMURA	22	大阪	ホンダ CB400SF	TEAM RSK	DL		
2	A	橋野 善信 YOSHINOBU HASHINO	29	兵庫	ホンダ CB400SF	R.C.DEFEATベルクラブ	BS		
3	A	尾崎 秀男 HIDEO OZAKI	26	兵庫	ホンダ CB400SF	R.C.DEFEAT	BS		
4	A	斉藤 雄一 YUICHI SAITO	26	大阪	スズキ GSX400インパルス	GARフィールドR&RSK	DL		
5	A	才原 俊介 SHUNSUKE SAHARA	24	大阪	ホンダ CB-1	RC-PALS&テクノワークス	MI		
6	A	土屋 猛 TAKESHI TSUCHIYA	40	大阪	ホンダ CB400SF	チーム バイクブラザ ヒカリ	BS		
7	A	市川 尚人 NAOTO ICHIKAWA	24	愛知	ホンダ CB400SF		DL		
8	A	横地 直樹 NAOKI YOKOCHI	23	愛知	ホンダ CB400SF		DL		
9	A	中村 浩 HIROSHI NAKAMURA	31	大阪	ホンダ CB400SF	ホンダ学園関西校R・T	DL		
10	A	宇藤 嘉浩 YOSHIHIRO UTÔ	30	愛知	ホンダ CB400SF	T・マイライフ & ニューセラ	BS		
11	A	刃之田 竹彦 TAKEHIKO UNODA	30	京都	カワサキ ZRX	KFライムグリーン!	DL		
12	A	永江 伸崇 NOBUTAKA NAGAE	21	愛知	ホンダ CB400SF	Racing Team RAY	MI		
13	A	川上 康範 YASUNORI KAWAKAMI	29	愛知	カワサキ ZRX	CRSFwith30's	DL		
14	A	稗田 祐士 YUJI HIEDA	23	京都	ホンダ CB400SF		DL		
15	A	岩谷 一人 KAZUTO IWATANI	24	三重	スズキ BANDIT	TEAM S・M・P	DL		
16	A	中川 雅量 MASAKAZU NAKAGAWA	26	大阪	ホンダ CB400SF	WAKE UP&BSルイノ!	BS		
17	A	小西 良宗 YOSHIMUNE KONISHI	28	三重	スズキ GSX400インパルス	MOTO STEP RT BP	BS		
18	A	岡嶋 智明 TOMOAKI OKAJIMA	30	愛知	ホンダ CB400SF	レーシングチーム大進	BS		
19	A	加藤 潤一 JUN'ICHI KATÔ	19	愛知	ホンダ CB400SF	モリワキクラブ	DL		
20	A	雨宮 豊一 TOYOKAZU AMEMIYA	32	愛知	ホンダ CB400SF	ER雨宮	BS		
21	A	加藤 幸二 KÔJI KATÔ	24	静岡	ホンダ CB400SF	レーシングチーム F・ROAD	BS		
22	A	瀬野 宏 HIROSHI SENO	29	兵庫	ホンダ CB400SF	LIGHT★HIP&BBKノ!	BS		
23	A	木下 富夫 TOMIO KINOSHITA	28	大阪	スズキ BANDIT	VEGASスポーツ&メガネの木下	BS		
24	A	菅原 豊 YUTAKA SUGAWARA	23	兵庫	スズキ GSX400インパルス	KEYCOFFEE&スガノRT	DL		
25	A	中井 辰治 TATSUJI NAKAI	25	大阪	カワサキ ZRX	BBK&SPIRAL'89	BS		
26	A	林 博一 HIROKAZU HAYASHI	26	三重	ホンダ CB400SF		DL		
27	A	奥村 幸四郎 KÔSHIRÔ OKUMURA	28	大阪	ホンダ CB400SF	SUIKA CLUBノ!	BS		
28	A	中山 英樹 HIDEKI NAKAYAMA	29	岐阜	ホンダ CB400SF	SOUL☆RIDER	DL		
29	A	吉本 和広 KAZUHIRO YOSHIMOTO	26	三重	ホンダ CB400SF	Team 竹島 K&T	DL		
30	A	野田 健 TAKESHI NODA	26	愛知	ホンダ CB400SF	Surf SEA SCAPE	DL		
31	A	立秋 幸治 KÔJI TATEAKI	30	大阪	ホンダ CB400SF	コワースプロダクト&ジニアス	DL		
32	A	西野 朋和 TOMOKAZU NISHINO	18	三重	ホンダ CB400SF	B.ゼノン・東条	DL		
33	A	小西 孝司 KÔJI KONISHI	29	大阪	カワサキ ZRX	S1Rレーシング☆アイライン	BS		
34	A	箱崎 大輔 DAISUKE HAKOZAKI	31	大阪	ホンダ CB400SF	ヘッドハンターレーシングチーム	BS		
35	A	内田 洋一 YÔICHI UCHIDA	31	福井	ホンダ CB400SF	KDCサービス THEFRP.	BS		
36	A	佐藤 直喜 NAOKI SATÔ	26	大分	ホンダ CB-1	RT-JIN	BS		
37	A	紙本 常明 TSUNEAKI KAMIMOTO	36	三重	ホンダ CB400SF		BS		
38	A	伊藤 和久 KAZUHIISA ITÔ	31	静岡	ホンダ CB400SF	F.C.C.TEAMマヨネーズ	DL		
39	A	藤村 英之 HIDEYUKI FUJIMURA	26	愛知	ホンダ CB400SF	チーム アトランタ	BS		
40	A	角田 潤一 JUN'ICHI KAKUDA	21	京都	ホンダ CB400SF	TEAM BATTERRA III	DL		
41	A	向山 将弘 MASAHIRO MUKÔYAMA	26	愛知	ホンダ CB400SF	チームカツラガワ&シンセツ	DL		
42	A	上村 芳範 YOSHINORI KAMIMURA	22	大阪	ホンダ CB400SF	アートトラックMIKAWAノR	DL		
43	A	天井 俊明 TOSHIAKI AMAI	27	大阪	スズキ GSX400インパルス	EYELINE・Makeup	BS		
44	A	坂本 国雄 KUNIO SAKAMOTO	22	大阪	カワサキ ZEPHYR	モトズーム・ポッキーレーシング	DL		
45	A	辻井 亨 AKIRA TSUJII	25	大阪	ホンダ CB400SF	BBK&LIGHT★HIPノ!	BS		
46	A	小森 康德 YASUNARI KOMORI	22	大阪	ホンダ CB400SF	レーシングチーム H.I.T.	BS		

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	B	桂川 公男 KIMIO KATSURAGAWA	47	愛知	ホンダ CB400SF	チームカツラガワ	BS		
2	B	丸崎 和也 KAZUYA MARUSAKI	23	大阪	ホンダ CB400SF	中谷レーシングファクトリー/!	DL		
3	B	長谷川 靖 YASUSHI HASEGAWA	22	愛知	ホンダ CB-1	SOUL☆RIDER	BS		
4	B	薙井 幸誠 KŌSEI MUROI	35	大阪	ホンダ CB400SF	タトゥー、レーシング	DL		
5	B	伊藤 嘉英 YOSHIHIDE ITŌ	26	三重	ホンダ CB400SF	R.T.EIMU R.G.N	DL		
6	B	水谷 吉成 YOSHINARI MIZUTANI	22	愛知	ホンダ CB-1	岐阜・サーティーズレーシング	BS		
7	B	相馬 俊輔 SHUNSUKE SŌMA	31	大阪	ホンダ CB400SF	チーム リトルウイング	DL		
8	B	南部 勉 TSUTOMU NANBU	27	大阪	ホンダ CB400SF	BIKESTATION	BS		
9	B	小原 康弘 YASUHIRO KOHARA	26	三重	ホンダ CB400SF	POWERMETAL&Pyu/!	BS		
10	B	高尾 龍二 RYŪJI TAKAO	31	大阪	ホンダ CB400SF	大阪 SAM R.T 0810	DL		
11	B	新山 敦史 ATSUSHI NIYAMA	25	三重	ホンダ CB400SF	Team BATTLE/!	DL		
12	B	大森 康博 YASUHIRO ŌMORI	24	奈良	ホンダ CB400SF	チームシングル&藤森部屋十両	DL		
13	B	玉巻 伸隆 NOBUTAKA TAMAMAKI	27	大阪	ヤマハ XJR400	SBSファンキーメイトONRF	DL		
14	B	番匠 孝亘 TAKANORI BANSHŌ	27	大阪	ホンダ CB400SF	アゲインレーシングクラブ	BS		
15	B	姫野 康弘 YASUHIRO HIMENO	24	大阪	ホンダ CB-1	BOSSII RACING	DL		
16	B	黒瀬 陽一 YŌICHI KUROSE	20	大阪	ホンダ CB400SF	京都学園大学と読売新聞箕面東2	DL		
17	B	福永 義一 YOSHIKAZU FUKUNAGA	21	大阪	ホンダ CB400SF	京都学園大学と読売新聞箕面東1	DL		
18	B	新家 義央 YOSHIO SHINKE	19	大阪	ホンダ CB400SF	関西外国語大学WAYWORDS	DL		
19	B	百々 智博 TOMOHIRO TODO	22	京都	ホンダ CB400SF	大阪工業大学II部 に〜どこ	DL		
20	B	三竹 史朗 SHIRŌ MITAKE	24	京都	ホンダ CB400SF	京都工芸繊維大M・C・S・C・	DL		
21	B	竹内 義之 YOSHIYUKI TAKEUCHI	22	大阪		大阪大学自動二輪部	DL		
22	B	里 征史 MASAFUMI SATO	21	奈良		奈良産業大学	DL		
23	B	古野 直樹 NAOKI FURUNO	23	兵庫	カワサキ ZRX	大谷大学・ハートビート	DL		
24	B	三溝 康稔 YASUTOSHI MITSUMIZO	22	大阪	カワサキ ZRX	桃山学院大学&チームトリッキー	DL		
25	B	長谷部 尚希 NAOKI HASEBE	21	大阪	スズキ GSX400インパルス	大阪学院大学自動二輪クラブ	DL		
26	B	丸谷 直樹 NAOKI MARUTANI	26	大阪	カワサキ ZRX	ウエビーと愉快的仲間&BSルイ	BS		
27	B	渡邊 啓明 HIROAKI WATANABE	26	愛知	ホンダ CB400SF	レーシング チーム 大進	BS		
28	B	渡辺 公也 MASAYA WATANABE	25	三重	ホンダ CB400SF	R ZENON&KOZU	DL		
29	B	増井 慎一 SHIN'ICHI MASUI	31	鳥取	ホンダ CB400SF	RTパドックスリー野沢組	BS		
30	B	高橋 洋之 HIROYUKI TAKAHASHI	33	京都	ホンダ CB400SF	シンセツレーシング&カツラガワ	DL		
31	B	梶原 祥一 SHŌICHI KAJIWARA	25	愛知	ホンダ CB400SF	JPMレーシングチーム	DL		
32	B	宇都 敏明 TOSHIAKI UTO	25	大阪	ホンダ CB400SF	レーシングチーム、熊坂	BS		
33	B	磯見 謙二 KENJI ISOMI	32	大阪	ホンダ CB400SF	レーシングチームIOP	DL		
34	B	藤本 淳一 JUN'ICHI FUJIMOTO	27	大阪	ホンダ CB400SF	TEAM しゃぶ伝 RSタイチ	BS		
35	B	新井 基寛 MOTOHIRO ARAI	31	京都	ホンダ CB400SF	TEAM BATTERRA	BS		
36	B	平野 良忠 YOSHITADA HIRANO	24	三重	ホンダ CB400SF	TEAM BATTERRA	DL		
37	B	家入 稔 MINORU OEIRI	30	兵庫	ホンダ CB-1	YOU西明石チームZero95	DL		
38	B	服部 秀明 HIWAKI HATTORI	26	愛知	ホンダ CB400SF	B&W KATO RT	BS		
39	B	黒田 功 ISAO KURODA	27	愛知	ホンダ CB400SF	TEAM TAKEDA	BS		
40	B	黒木 智信 TOMONBU KUROKI	25	大阪	ホンダ CB400SF	サカイホンダ&アゲイン	BS		
41	B	清水 仁人 YOSHIHI TO SHIMIZU	32	福井	ホンダ CB400SF	赤い3輪車レーシング・クラブ	DL		
42	B	森田 洋 HIROSHI MORITA	22	大阪	スズキ GSX400インパルス	大阪工業大学&クワガタムシ	DL		
43	B	天井 隆之 TAKAYUKI AMAI	31	奈良	スズキ GSX400インパルス	EYELINE&立秋モーターズ	BS		
44	B	蜂須賀 照宗 TERUMUNE HACHISUKA	22	大阪	カワサキ ZRX	大谷大学ハートビートクラブ	DL		
46	B	稲垣 誠 MAKOTO INAGAKI	19	三重	ホンダ CB400SF	テクニカルスポーツ	BS		

ENTRY LIST

NK4-II

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	C	神喰 弘二 KÓJI KAMUJIKI	23	愛知	ホンダ CB400SF	B&WKATOレーシングクラブ	DL		
2	C	木村 武史 TAKESHI KIMURA	19	三重	ホンダ CB400SF	リトルウイング・早希斗号	DL		
3	C	高田 速人 HAYATO TAKADA	20	東京	ホンダ CB400SF	チームファニー-WINGオクムラ	BS		
4	C	謝敷 宗克 MUNEKATSU JASHIKI	36	岐阜	カワサキ ZRX	メドルマ レーシング	BS		
5	C	辻野 裕司 YÚJI TSUJINO	25	大阪	ホンダ CB400SF	アゲインレーシングクラブ	BS		
6	C	赤倉 裕幸 HIROYUKI AKAKURA	25	東京	ホンダ CB400SF	レーシングチーム ハニービー	BS		
7	C	内田 章二 SHÓJI UCHIDA	24	東京	ホンダ CB400SF	チームファニー-WINGオクムラ	BS		
8	C	松永 直人 NAOTO MATSUNAGA	29	大阪	ホンダ CB400SF	アゲインレーシングクラブ	BS		
9	C	武岡 英樹 HIDEKI TAKEOKA	29	大阪	スズキ GSX400インパルス	ヘッドハンターTeam才谷屋	BS		
10	C	早瀬 康光 YASUMITSU HAYASE	25	大阪	スズキ GSX400インパルス	BBK&ZERO LAG	BS		
11	C	黒木 要 KANAME KUROKI	29	大阪	ホンダ CB400SF	TeamUSAM神戸	BS		
12	C	出口 修 OSAMU DEGUCHI	21	愛知	ホンダ CB400SF		DL		
13	C	酒井 靖夫 YASUO SAKAI	26	静岡	ホンダ CB-1	F.C.C.TEAMマヨネーズ	DL		
14	C	松尾 和彦 KAZUHIKO MATSUO	31	奈良	ホンダ CB400SF	BLACKZONEreturn			
15	C	西村 央 HISASHI NISHIMURA	27	大阪	ホンダ CB400SF	DIZZY CLUB&ZIP	BS		
16	C	千葉 吉人 YOSHITO CHIBA	24	愛知	ホンダ CB400SF	BIKE&BIKE.RT	BS		
17	C	吉岡 徹 TÓRU YOSHIOKA	23	大阪	ホンダ CB400SF	シークレット・スピード!!	BS		
18	C	橋本 充巧 ATSUYOSHI HASHIMOTO	22	奈良	ホンダ CB400SF	シークレット・スピード!	BS		
19	C	中山 圭介 KEISUKE NAKAYAMA	26	兵庫	ホンダ CB400SF	タカトリレーシング	DL		
20	C	山口 幸久 YUKIHISA YAMAGUCHI	25	大阪	カワサキ ZRX	ETHOS-D.D.BOYS	BS		
21	C	山川 宏三 KÓZÓ YAMAKAWA	35	滋賀	ホンダ CB400SF	レーシング チーム トータス	BS		
22	C	北山 勉 TSUTOMU KITAYAMA	31	大阪	スズキ BANDIT	ヘッドハンターレーシングクラブ	MI		
23	C	河原林 猛 TAKESHI KAWARABAYASHI	23	滋賀	ホンダ CB400SF	パレイ・レーシングF	DL		
24	C	八尾 亮仁 RYÓJI YAO	22	三重	ホンダ CB400SF		DL		
25	C	渡辺 佳樹 YOSHIKI WATANABE	23	大阪	ホンダ CB400SF	SHOT GUN RACING	DL		
26	C	粒来 広 HIROSHI TSUBURAI	26	静岡	スズキ GSX400インパルス	タキオン RF	DL		
27	C	澤入 勝弘 KATSUHIRO SAWAIRI	27	山梨	スズキ GSX400インパルス	RT・モトクラフト タカミ	DL		
28	C	小林 公一 KÓICHI KOBAYASHI	34	山梨	スズキ GSX400インパルス	ナイン☆テンR.T.	DL		
29	C	水平 至 MAKOTO MIZUHIRA	36	京都	ホンダ CB400SF	京都東山IMRC	DL		
30	C	加藤 均 HITOSHI KATÓ	25	神奈川	ホンダ CB400SF	TEAMヘッドハンター横浜	BS		
31	C	潮崎 雄一 YÚICHI SHIOZAKI	27	和歌山	ホンダ CB400SF	紀州清月葉舗と谷コクリーニング	DL		
32	C	重富 浩二 KÓJI SHIGETOMI	30	広島	ホンダ CB400SF	TEAM FLAG ヒロブラン	BS		
33	C	倉本 正幸 MASAYUKI KURAMOTO	29	愛知	ホンダ CB400SF	チームエジテツ&A'Sウイング	DL		
34	C	臼野 英樹 HIDEKI USUNO	23	大阪	ホンダ CB400SF	シークレットスピード	BS		
35	C	山本 昌秀 MASAHIDE YAMAMOTO	22	大阪	ホンダ CB400SF	RTモトショップドリーム	DL		
36	C	丸山 克典 KATSUNORI MARUYAMA	22	大阪	スズキ GSX400インパルス	VEGA SPORTS	BS		
37	C	西沢 頼 TANOMU NISHIZAWA	29	大阪	ホンダ CB400SF	才谷屋TEAMヘッドハンター	BS		
38	C	中村 英二 EIJI NAKAMURA	22	福井	ホンダ CB400SF	赤い3輪車レーシングクラブ	DL		
39	C	鈴木 康弘 YASUHIRO SUZUKI	35	静岡	スズキ GSX400インパルス	RT-Fロード NK	BS		
40	C	岩崎 泰巳 YASUMI IWASAKI	24	京都	ホンダ CB400SF		BS		
41	C	前田 洋三 YÓZÓ MAEDA	32	大阪	ホンダ CB400SF	都工前さくらんぼ	DL		
42	C	宮崎 城三郎 JÓZABURÓ MIYAZAKI	33	奈良	ホンダ CB400SF	昭和小型自動車&ローカス	DL		
43	C	岡田 仁 HITOSHI OKADA	22	大阪	ホンダ CB400SF	中谷レーシングファクトリー	DL		
44	C	西川 雅人 MASATO NISHIKAWA	31	大阪	ホンダ CB400SF	オートパブリック大阪ダンロップ	DL		
45	C	小島 泰之 YASUYUKI KOJIMA	31	愛知	カワサキ ZRX	Team BATTLE	BS		

1995 125cc World Champion
Haruchika Aoki



Build in

Champion Suspension

勝者の超性能サスペンション<WP>

人が肉体をビルドアップして自らの限界に挑むように、
卓越したパーツをビルドインすることで、
そのポテンシャルを限りなく高めていくレーシングマシン。
今、あなたがマシンの脚回りの強化を目指しているなら
本場ヨーロッパのサーキットで誰もが認めるサスペンション<WP>。
時間の壁を越えたければ、超性能の豪脚を組上げろ。



MC INTERNATIONAL CO.,LTD.
4-15-18 SHINMACHI NISHI-KU OSAKA JAPAN 550
TEL.06-536-0901 FAX.06-536-0907



WM PROD. TEAM CO.,LTD.
2-9-33 MIZUHAI HIGASHI-OSAKA OSAKA JAPAN 578
TEL.0729-61-1888 FAX.0729-66-0010

GP250

START 11:50
17LAPS

主導権をめぐる 2強対決!!



2連覇、そしてグランプリへ向けての沼田の走りに注目だ。

沼田憲保vs加藤大治郎

250はスーパーバイクや125の混戦状態とはまた一味違った、なかなか興味深い争いが展開されている。サテライトチームの所属ではあるけれど、実質的なホンダワークスとなる加藤大治郎と95全日本チャンピオン、スズキワークスの沼田憲保の一騎打ちだ。沼田30歳、大治郎19歳(7月で20歳だ)。NSR250とRGV-Γ250。ダンロップタイヤにミシュラン。なにかもか対極にあるふたりの、ごく近い将来の目標は同じ。"全日本チャンピオンとなってグランプリへ"だ。

大治郎の速さは、今さら言うまでもない。キレがあるし、その素質は十分にグランプリで通用する。4月のマールボロGPでし烈な3位争いを制して表彰台を得た経験は、大きい。後は、シーズンを通してこれまで何度かあった突然の転倒をなくすだけだ。

沼田もマールボロGPで2位と大活躍。けれど沼田は、1位ピアッジとの差をそのデファレンス以上に感じていた。グランプリのレベルと自分の力の差。だから、今シーズン、連覇は当然として、どんなレースをして勝つかを自分の課題としている。「ただ勝っても意味がない」とまで言い切る沼田。現在のライダーとマシンの実力からすれば残りを全勝しても不思議はない。もちろん、口で言うほど簡単なことではないのだが。たぶん大治郎も、また同じ気持ちかもしれない。それほどふたりの目標はハッキリしているから、その争いは、かなりレベルの高い激しいレースとなるだろう。おもしろいのは、ふたりのタイヤが違うこと。大治郎の使うミシュランは、どちらかというと温まるのに少々時間がかかる。だから序盤のペースはやや抑え気味で、終盤に勝負の後半型。一方沼田のダンロップは極端ではないもののその逆。だから沼田を大治郎が追う、という展開になりやすい。まあ、ふたりとも、たとえ独走になっても、終盤安全ペースに、というレース振りは見



全日本タイトル、そしてグランプリへ…。今シーズンを牽引するふたりのライダーの目指すゴールはひとつだ。沼田憲保と加藤大治郎RGV-ΓとNSRという武器を手に、このふたりがどう攻め、どう戦うのかそして、どちらが先にその目標に到達するのだろうか?

せないだろう。そのときは、見えない相手を追っているのだから。

成長著しい、ヤマハ芳賀

そのふたりを追うのは、このところ評価の高い芳賀兄弟の兄、健輔だ。ヤマハは全日本には今のところYZRを投入していないため、市販TZのワークスチューン。マールボロGPでもYZRに乗せてあげたいほどの走りを見せていた。チームに先輩の本間利彦がいるのも成長の原因かもしれない。本間はフル参戦が実に久し振りだから、序盤戦を終えてレース慣れしてきた今回あたりからが本番。

また、注目したいのは、スズキ勢。今までは沼田の孤軍奮闘だったけれど、今シ

ズンから後輩の加賀山幸男と亀谷長純が参戦。当然ふたりともワークスマシンだ。市販レーサー登場もウワサされるRGV-Γは、沼田も含めてこれで3台が走ることになる。プライベート勢トップはRSに乗る森兼正明。ワークスの一角を崩す実力十分だ。アプリリアの四田禎智はやや苦戦。もともとセッティングがシビアなマシンなのだ。決まったときは本当に速いけれど。

何台ものダンゴ状態の混戦だけが、いいレースなのではない。この250のようにレベルの高いところで、少ない台数でそれぞれの順位を争っても、厳しさが伝わってくるおもしろいレースもある。たとえ独走になっても、見ていて緊張感のある走りをGP250には期待できるのだ。

GP250クラス・ポイントランキング(第3戦/筑波終了時)

順位	セッケン/ライダー	マシン	ポイント 合計	第1戦 鈴鹿 3/17	第2戦 菅生 4/28	第3戦 筑波 5/19
1	5 加藤大治郎	H-NSR250	49	9	20	20
1	6 芳賀 健輔	Y-TZ250	49	17	15	17
3	1 沼田 憲保	S-RGV-Γ250	37	20	17	0
4	18 亀谷 長純	S-RGV-Γ250	33	7	11	15
5	36 本間 利彦	Y-TZ250	28	15	13	0
6	15 松戸 直樹	Y-TZ250	27	11	5	11
7	7 森兼 正明	H-RS250R	23	13	10	0
8	12 小倉 直人	Y-TZ250	19	0	9	10
9	11 玉田 誠	H-RS250R	18	10	8	—
10	13 浜口 俊之	H-RS250R	16	8	0	8

(公式得点) 1位→20点、2位→17点、3位→15点、4位→13点、以下5~15位→11~1点



マールボロGPではTZでヤマハ最上位につけた芳賀。2強対決に絡み初優勝をもぎ取りたい。



全日本唯一の96NSRを駆る大治郎が沼田をどう追い詰めるか。



キレのある走りも完全復活なるか。全日本GP250に参戦のかたわら、500の開発を担当する本間。



GP250 MACHINES

正回転1軸クランクシャフト75度Vツイン・クランクケースリードバルブのホンダNSR250は、今年も全日本最強の250だ。通常とは逆の右チェーン、片持ちのプロアームが特徴。車体回りは96モデルで大きな変更を受け、コーナー前半での旋回性や接地感を向上させた。その市販レーサーRSも乗りやすい方向で味つけされている。ヤマハは全日本にはYZRではなく、TZのワークスチームを走らせる。エンジンは正回転1軸90度Vツイン・クランクケースリードバルブ。スズキRGV-Γ250は、95モデルで500と同様にエンジンを一新。それまでのボア・ストローク56×50.7mmから54mmスクエアとなった。デイトナが走らせるアプリリアRSV250は、2軸クランクシャフトが相互逆回転する90度Vツイン・ロータリーディスクバルブという欧州車らしい構造だ。



HONDA NSR250

⑤加藤大治郎 (Team高武RSC)



HONDA RS250R

⑦森兼正明 (ENDURANCE)



YAMAHA TZ250

⑥芳賀健輔 (Y.R.T.)



SUZUKI RGV-Γ250

①沼田憲保 (ラッキーストライク・スズキ)



APRILIA RSV

⑤匹田禎智 (チームボスコ・モト&デイトナ)



1 沼田憲保 Noriyasu NUMATA

SUZUKI RGV-Γ 250
ラッキー 스트ライク・スズキ

1966年4月26日生まれ (30歳) A型 茨城県出身
91年国際A級昇格
全日本A250クラス・ランキング14位
92年全日本GP250クラス・ランキング9位
93年全日本GP250クラス・ランキング5位
94年全日本GP250クラス・ランキング2位
95年全日本GP250クラス・チャンピオン
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 優勝/第2戦菅生 2位/
第3戦筑波 リタイア)
マールボロ日本GP・250ccクラス 2位



12 小倉 直人 Naoto OGURA

YAMAHA TZ250
IKKO RACING

1969年2月8日生まれ (27歳) AB型 新潟県出身
92年関東選手権 NB250クラス・ランキング2位
93年国際A級昇格
全日本GP250クラス参戦
94年全日本GP250クラス・ランキング20位
95年全日本GP250クラス・ランキング12位
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 30位/第2戦菅生 7位/
第3戦筑波 6位)



5 加藤大治郎 Daijirō KATŌ

HONDA NSR250
Team高武 RSC

1976年7月4日生まれ (19歳) A型 埼玉県出身
93年九州選手権SP250/GP250
/GP125クラス・チャンピオン
94年国際A級昇格
全日本GP250クラス・ランキング7位
95年全日本GP250クラス・ランキング5位
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 2位/第2戦菅生 優勝/
第3戦筑波 優勝)
マールボロ日本GP・250ccクラス 3位



15 松戸直樹 Naoki MATSUDO

YAMAHA TZ250
コンパイル レーシング ヤマハ

1973年7月25日生まれ (22歳) A型 千葉県出身
92年国際A級昇格
93年全日本GP250クラス・ランキング17位
94年全日本GP250クラス・ランキング10位
95年全日本GP250クラス・ランキング15位
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 5位/第2戦菅生 11位/
第3戦筑波 5位)



6 芳賀健輔 Kensuke HAGA

YAMAHA TZ250
Y. R. T.

1973年6月1日生まれ (23歳) B型 愛知県出身
92年国際A級昇格
全日本GP250クラス・ランキング14位
93年全日本GP250クラス・ランキング23位
94年全日本GP250クラス・ランキング9位
95年全日本GP250クラス・ランキング6位
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 2位/第2戦菅生 3位/
第3戦筑波 2位)



18 亀谷長純 Chōjun KAMEYA

SUZUKI RGV-Γ 250
JAJA RACING TEAM

1976年11月10日生まれ (19歳) AB型 埼玉県出身
94年SUGO選手権SP250クラス・チャンピオン
95年全日本GP250クラス・ランキング18位
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 8位/第2戦菅生 29位/
第3戦筑波 3位)



7 森兼正明 Masaaki MORIKANE

HONDA RS250R
ENDURANCE

1968年3月10日生まれ (28歳) A型 山口県出身
91年国際A級昇格
全日本A250クラス・ランキング34位
92年全日本GP250クラス・ランキング15位
93年全日本GP250クラス・ランキング10位
94年全日本GP250クラス・ランキング6位
95年全日本GP250クラス・ランキング7位
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 4位/第2戦菅生 6位/
第3戦筑波 22位)



36 本間利彦 Toshihiko HONMA

YAMAHA TZ250
Y. R. T.

1967年3月24日生まれ (29歳) B型 愛知県出身
87年全日本GP250クラス・ランキング3位
88年全日本GP250クラス・チャンピオン
89年全日本GP250クラス・ランキング2位
90年全日本GP250クラス・ランキング9位
91年全日本GP500クラス・ランキング3位
92年全日本GP500クラス・ランキング4位
93年全日本GP250クラス・ランキング2位
96年全日本GP250クラス参戦 (第1戦鈴鹿 3位
/第2戦菅生 4位/第3戦筑波 23位)



11 玉田 誠 Makoto TAMADA

HONDA RS250R
Team高武 RSC

1976年11月4日生まれ (19歳) O型 愛媛県出身
94年九州選手権SP250&NB250チャンピオン
95年全日本GP250クラス・ランキング11位
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 6位/第2戦菅生 8位)



51 匹田禎智 Sadanori HIKITA

APRILIA RSV
チームボスコ・モト&デイトナ

1962年11月25日生まれ (33歳) A型 長野県出身
90年国際A級昇格
全日本A250クラス・ランキング16位
92年全日本GP250クラス・ランキング6位
93年全日本GP250クラス・ランキング4位
94年全日本GP250クラス・ランキング5位
95年世界GP250クラス・ランキング21位
96年全日本GP250クラス参戦
(第1戦鈴鹿 リタイア/第2戦菅生 16位/
第3戦筑波 4位)

'96F1フジテレビ日本グランプリ



10/11^{フリー走行}・12^{予選}・13^{決勝}

**オンラインチケット他にて、
7月1日より観戦券発売開始!**

'87年の第1回大会以来、10周年を迎えるF1日本グランプリ。今年はシューマッハーの新たな挑戦や、ビルヌーブの活躍、そして無限ホンダの優勝など、白熱するレースに加えて、10周年を記念するイベントが満載。これまで以上に盛り上がるF1日本グランプリに乞うご期待!



前売り観戦券(税込み)	大人	高校生	小・中学生
3日間通し券(10/11~13)	16,000円	8,000円	5,000円
金曜フリー走行観戦券(10/11)	7,000円	3,500円	—

※3才~小学校入学前の方は遊園地入園料800円で自由席に入場できます。

指定席券(税込み)			
■B1席 15,000円	■B2席 15,000円	■B3席 12,000円	
■D席 25,000円	■F席 18,000円	■G席 15,000円	
■H席 15,000円	■J席 12,000円	■K席 12,000円	
■L席 9,000円	■N席 9,000円		

L、N席を除く指定席からはサーキットビジョンがご覧いただけます
※3才から小学校入学前のお子様は指定席に入場する場合には、小・中学生の観戦券と指定席券が必要となります。
※別途観戦券が必要です。
※すでに観戦券をお持ちの方は、指定席券のみでもご購入いただけます。

F1 チケットのお求めは
●ローソンチケット、ダイエー(OMC店) 7/1のみ特電 06-369-6699
7/2~ 06-369-6633
●チケットぴあ ●チケットセゾン ●CNプレイガイド ●ファミリーマート(電話予約はチケットセゾン) ●JR東海旅行センター、JR東海ツアーズ ●鈴鹿サーキットチケットセンター
チケットについてのお問い合わせは、鈴鹿サーキットチケットセンター

F1の迫力を堪能するなら指定席がおすすめ!

F1の魅力のひとつは迫力ある排気音。最終コーナースタンドではストレードに向けシフトアップするF1サウンドが楽しめる

鈴鹿で一番小さいコーナーのヘアピンは、ドライバーへの声援が届きやすい。お目当てを応援するならここしかない

コーナーの進入から立ち上がりまでワイドに見渡せるスプーンカーブ。マニアはここでセッティングの善し悪しを見ているのだ

バックストレッチ
鈴鹿で最高速が出るのが、ここバックストレッチだ。時速300kmを超えるF1マシンの走りはここでしか見られない!

全開でコーナーを駆け上がるF1マシンが大迫力のダンロップコーナー。スタート直後、一団で駆け抜ける大サウンドに酔える

指定席
自由席

**女性、中・高校生
に前売り券
発売中!**

SUZUKA CIRCUIT MOTOR SPORTS

1996年全日本選手権 フォーミュラ・ニッポン 第5戦 鈴鹿サーキット

7/6(土)予選・7(日)決勝

●開催クラス:Fニッポン・F3・カローラ/スプリンター
装いも新たにスタートしたフォーミュラ・ニッポン。ヤングパワーの台頭で抜きつ抜かれつとのレース展開は手に汗握るスーパーバトルの連続。特にあのシューマッハーの弟ラルフ・シューマッハーとヤングタイガー高木虎之介のバトルは必見。日本最高峰のフォーミュラ・ニッポン初代チャンピオンを賭けて、バトル加速!

券種	大人	女性	中・高校生
前売り券(2日間有効)	5,000円	3,200円	1,600円
決勝当日券	6,000円	4,000円	2,000円

※3才から小学生の方は遊園地入園料800円(税込み)にて自由席でご観戦いただけます。

指定席券(税込み)			
S1	S2	Aエリア	Eエリア
4,000円	2,000円	1,500円	2,000円

※別途観戦券が必要です。指定席券は、3才の方から必要です。



インターナショナルGT耐久シリーズ第7戦 ポッカ インターナショナル 1000km耐久レース

8/24(土)予選・25(日)決勝

●開催クラス:1000km耐久・F4・スーパーシルビア
世界のGTカーが真夏の鈴鹿に集結。ホンダNSX、マクラーレンF1 GTR、フェラーリF40、ポルシェなど、1000kmにわたるバトルはこれまでも数々のドラマが誕生してきた。25回記念大会の今年はこれまで以上の楽しさと感動が生まれることだろう。

券種	大人	女性	中・高校生
前売り券(2日間有効)	5,000円	3,200円	1,600円
決勝当日券	6,000円	4,000円	2,000円

※3才から小学生の方は遊園地入園料800円(税込み)にて自由席でご観戦いただけます。

指定席券(税込み)			
S1	S2	Aエリア	Eエリア
4,000円	2,000円	1,500円	2,000円

※別途観戦券が必要です。指定席券は、3才の方から必要です。



レースチケットのお求めは

- JR東海旅行センター、JR東海ツアーズ(1000kmのみ)
- チケットセゾン 名古屋☎052-290-0200 大阪☎06-232-9999 東京☎03-5990-9999
- チケットぴあ 名古屋☎052-320-9999 大阪☎06-363-9999 東京☎03-5237-9999
- CNプレイガイド☎03-5802-9999 ●関西プレイガイド協会☎06-456-2555
- ローソンチケット、ダイエー(OMC店)☎06-369-6633 ●ファミリーマート(電話予約はチケットセゾン)
- am/pm、MINI STOP☎03-5802-9999
- ヤマト宅急便チケットセンター☎052-303-1813またはFAX052-303-6203でチケットが届きます(送料別途)。
- ミリオンチケットセンター(ミリオンカード会員専用) 名古屋☎052-243-6507 大阪☎06-231-2370 東京☎03-3265-7194
- ★鈴鹿サーキット各営業所 ●鈴鹿サーキットチケットセンター ★ホンダウエルカムプラザ青山
- ★JAF ★旅行代理店 ★全国主要プレイガイド ※★は観戦券のみのお取り扱いとなります。

●お問い合わせは
**鈴鹿サーキットチケットセンター
0593-78-1111**

※チケットセンターには、鈴鹿サーキットで開催のレースの詳細がわかるポケットカレンダーをご用意しています。
お気軽にお立ち寄りください。



チェッカーまで続くテールtoノーズの攻防。注目はファイナルラップのシケイン突っ込みと最終コーナー立ち上がり。



開幕から2戦連続ポール、第2戦菅生で2位と出だし好調の高尾和弘。

世界へ続く ビクトリーロード



開幕から着実にポイントを重ね
ランキングトップに立つ小澤
ここにきて東の追撃にも火がついた
今年、世界への切符を手に入れるのは？

GP125

START 10:30
15LAPS

今シーズンは全日本勢にGP帰りの仲城英幸、菊池寛幸を加え、毎戦のようにウィナーが替わる激戦が繰り広げられてきた。目まぐるしく順位を入れ替え、大きく膨らむ接近戦は、125ccクラスならではの激しさで、見応えのある戦いが続いている。

さて、その激戦の中心にいるのは、現在ランキングトップに立つENDURANCEの小澤敏明だ。予選3番手スタートとなった第2戦菅生で念願の全日本初優勝。続く第3戦筑波は2位でフィニッシュ。オフシーズンに勢力的に走りこみ、満を辞してシーズンインした小澤は、この序盤3戦で一躍タイトル争いの主役に躍り出た。

その小澤を追うのは東 雅雄だ。シーズン立ち上がりは苦戦を強いられたが、第3戦筑波でまずは1勝をマーク。4月のマールボロGPでも中盤までトップ争いに食らいつく走りを見せるなど、攻め抜く走りは健在。マシン、ライダーの実力ともに、突出した存在なのは明らかだ。

そして開幕戦で独走優勝を飾ったJhaレーシングの仲城英幸も、戦いの中心的存在



開幕戦でのブツギリを、仲城が再びこの鈴鹿で見せられるか？

だ。鈴鹿ではAVガス仕様のマシン、そして久しぶりの全日本に戸惑いながらも、難しいコンディションのなかで優勝。続く菅生ではトップ争いの最中に転倒を喫してしまうが、世界で磨きかけたテクニックとスピード、そしてレース戦術が光る。

このメンバーに、初勝利へ執念を燃やす強力な伏兵が絡む。まずは開幕から2戦連続でポールポジションを獲得した高尾和弘だ。雨の開幕戦ではスタートに失敗。最後尾近くまでポジションを落とすものの、ファステストラップを記録しながら猛追。高尾が使うブリヂストンのレインはダンロップのレインに比べ、温まるまでに多少時間がかかる。それだけにスタートの失敗が悔やまれるところだが、この時の走りは評価すべきものだった。この好調にはライダーのポテンシャルはもちろん、名門ハルクプロのマシン作りのノウハウがある。念願の初優勝が今回のレースで達成される可能性は少ない状況だ。

そしてSP忠男チューンのヤマハTZを駆る中野真矢。速さと紙一重の転倒も多かった昨シーズンから成長著しく、開幕戦では早くも自己最高の2位表彰台を獲得。持ち前のスピードに安定性が加われば、恐いものなしのライダーだ。さらに第3戦筑波で初のポールポジションを獲得、俄然注目を

速さに安定性が加われば、中野が初勝利を挙げる日は近い。



筑波で待望の1勝目をマークし、勢いに乗った東。

集めた中川 実、そして佐藤慎也、稲毛田潤も目が離せない存在だ。もちろん、この他に、思わぬ伏兵が現れる可能性はある。突然化けるライダーがひしめくこのクラスだけに、レース毎に思わぬ展開が生まれるのも珍しくないのだ。

さて、世界へ続くGP125クラスのビクトリーロード。その布石を、ここ鈴鹿で積み上げるのは一体誰だろう。



GP125クラス・ポイントランキング(第3戦/筑波終了時)

順位	ゼッケン/ライダー	マシン	ポイント合計	第1戦 鈴鹿 3/17	第2戦 菅生 4/28	第3戦 筑波 5/19
1	6 小澤 敏明	H-RS125	50	13	20	17
2	2 東 雅雄	H-RS125	31	11	0	20
3	109 仲城 英幸	H-RS125	30	20	0	10
4	4 高尾 和弘	H-RS125	28	9	17	2
4	10 佐藤 慎也	H-RS125	28	15	—	13
6	12 中野 真矢	Y-TZ125	23	17	0	6
7	32 稲毛田 潤	H-RS125	20	5	15	0
8	106 中川 実	H-RS125	19	0	4	15
9	38 水野 生久	Y-TZ125	16	7	8	1
9	41 松永 弘志	H-RS125	16	0	7	9

(公式得点) 1位→20点、2位→17点、3位→15点、4位→13点、以下5~15位→11~1点

GP125 MACHINES

今季は、TZの開発担当の茨木が数戦に出場する(今大会は不出場)のみとなり、ワークスチューンのマシンは存在しないGP125クラス。RSでは、テクニカルスポーツ開発のパワージェットつきPAXキャブレターがチューニングの新しいトレンド。パワーと乗りやすさを向上させるこのキャブレターは、東や佐藤がすでに実戦で使用し好感触を得ている。TZは全日本の実戦でのデータ不足が予想されるが、中野の活躍からも、ショップチューナーレベルの高度なチューニングで戦闘力はアップしている。



HONDA RS125R
②東 雅雄(チーム フジワラBP)



YAMAHA TZ125
⑩中野真矢(SP忠男レーシングチーム)



2 東 雅雄

Masao AZUMA

HONDA RS125R
チーム フジワラ BP

1971年3月24日生まれ (25歳) B型 高知県出身
94年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング12位
95年全日本GP125クラス・ランキング2位
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿5位/第2戦菅生リタイア/
第3戦筑波優勝)
マールボロ日本GP・125ccクラス 6位



32 稲毛田 潤

Jun INAGEDA

HONDA RS125R
Dinky&Able com.

1966年7月12日生まれ (29歳) A型 神奈川県出身
89年国際A級昇格
91年全日本I A125クラス・ランキング12位
92年全日本GP125クラス・ランキング17位
93年全日本GP125クラス・ランキング16位
94年全日本GP125クラス・ランキング8位
95年全日本GP125クラス・ランキング32位
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿11位/第2戦菅生3位/
第3戦筑波リタイア)



4 高尾和弘

Kazuhiro TAKAO

HONDA RS125R
カストロール TEAM ハルクプロ

1968年5月19日生まれ (28歳) A型 愛知県出身
93年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング7位
94年全日本GP125クラス・ランキング10位
95年全日本GP125クラス・ランキング4位
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿7位/第2戦菅生2位/
第3戦筑波14位)

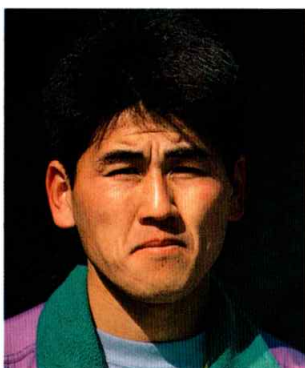


38 水野生久

Ikuhisa MIZUNO

YAMAHA TZ125
Support Racing

1968年12月10日生まれ (27歳) B型 愛知県出身
91年国際A級昇格
全日本I A125クラス・ランキング38位
92年全日本GP125クラス・ランキング7位
93年全日本GP125クラス・ランキング11位
94年全日本GP125クラス・ランキング19位
95年全日本GP125クラス・ランキング37位
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿9位/第2戦菅生3位/
第3戦筑波15位)



6 小澤敏明

Toshiaki OZAWA

HONDA RS125R
ENDURANCE & 彩光

1970年3月21日生まれ (26歳) A型 埼玉県出身
92年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング14位
93年全日本GP125クラス・ランキング22位
94年全日本GP125クラス・ランキング29位
95年全日本GP125クラス・ランキング6位
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿4位/第2戦菅生優勝/
第3戦筑波2位)



41 松永 弘志

Hiroshi MATSUNAGA

HONDA RS125R
テクニカルスピード

1973年9月24日生まれ (22歳) AB型 千葉県出身
93年スーパーカップイースタンシリーズ参戦
94年全日本GP125クラス・ランキング21位
95年全日本GP125クラス・ランキング41位
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿19位/第2戦菅生9位/
第3戦筑波7位)



10 佐藤慎也

Shin'ya SATO

HONDA RS125R
サイダースサロン 横浜

1971年1月16日生まれ (25歳) A型 神奈川県出身
91年国際A級昇格
全日本I A125クラス・ランキング41位
92年全日本GP125クラス・ランキング11位
93年全日本GP125クラス・ランキング24位
94年全日本GP125クラス・ランキング18位
95年全日本GP125クラス・ランキング10位
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿3位/第2戦菅生予選落ち/
第3戦筑波4位)



106 中川 実

Minoru NAKAGAWA

HONDA RS125R
モトバムレオスレーシング

1968年8月5日生まれ (27歳) B型 千葉県出身
91年ハイランド選手権・ランキング6位
92年国内A級昇格
94年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング25位
95年全日本GP125クラス参戦
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿リタイア/第2戦菅生12位/
第3戦筑波3位)



12 中野真矢

Shin'ya NAKANO

YAMAHA TZ125
SP忠男 レーシングチーム

1977年10月10日生まれ (18歳) O型 千葉県出身
94年鈴鹿NB-SP250クラス・チャンピオン
鈴鹿4耐優勝 (with山内俊児)
95年国際ライセンス昇格
全日本GP125クラス・ランキング10位
96年全日本GP125クラス参戦
(第1戦鈴鹿2位/第2戦菅生リタイア/
第3戦筑波10位)



109 仲城英幸

Hideyuki NAKAJO

HONDA RS125R
Jhaレーシング

1968年9月6日生まれ (27歳) O型 奈良県出身
90年全日本国内A級125クラス・ランキング2位
91年国際A級昇格
全日本I A125クラス・ランキング2位
92年全日本GP125クラス・ランキング3位
93年全日本GP125クラス・ランキング2位
94年世界GP125クラス・ランキング11位
95年世界GP125クラス・ランキング9位
96年全日本GP125クラス参戦 (第1戦鈴鹿優勝
/第2戦菅生27位/第3戦筑波6位)

モーターマガジン社
東京都港区新橋5-33-10 Tel.03-3434-3151(代)

オートバイ

毎月1日発売/定価550円

Mr. Bike モーターバイク

毎月6日発売/定価280円

Mr. Bike モーターバイク BG

毎月14日発売/定価320円

GOGGLE

毎月24日発売/定価500円

もう、ふりふりキレちゃってしまってます。です。

いいな、欲しいな、がある。

スゲエー、がある。ヤルじゃん、がある。

なに考えてんだ、バカヤロー、もある。

バイクファンの気持ちを、

ギョギョツとつかむモーターマガジンの雑誌たち。

なかみ、ギツチリ。

もう、ふりキレちゃってる読みごたえです。

あなたの好きな一冊が、きつとこのなかにある。

モーターマガジン社から。



もう、好きで、好きで。
モーターマガジン社の雑誌



NK4-II

START 16:15
12LAPS



NK4hours

夏への前哨戦

NK4ライダー、コンストラクターすべてが
等しく目指すNK4耐制覇へ向けて
今年も熱い戦いが始動する。さて、抜け出すのは？

鈴鹿選手権NK4-IIは国内、フレッシュマンライセンスのライダーが400ccのネイキッドマシンで争うレースだ。マシンは鈴鹿コンストラクターズコミッティーの公認車両で、現在はエントリーの大多数をホンダCB400SFが占めている。

NK4マシンはエンジンの改造が一切禁止されているが、キャブは公認されたものなら交換も可能で、ケイヒンFCRを使うマシンが多い。ただしキャブを交換する場合は1気筒あたり28mmのエアリストリクターの装着が義務づけられている(空冷車両は除く)。タイヤはスリックで、ブリヂストンとダンロップのシェアはほぼ半々。他にフロントフォークやリアサスペンション、ブレーキ関係は交換、改造が許されている。

では今大会の行方を占ってみよう。まず注目はランキングトップのモリワキクラブ加藤潤一。これまでの3戦すべてで表彰台に上がる安定した強さを見せ、今回は15kgものハンディウエイトを積む。しかしウ



エイト積載時のノウハウはすでに持っているチームだけに、優勝候補最右翼の座はゆるぎない。その加藤を追うのがF.C.C. TEAMマヨネーズのCB-1 酒井靖夫、シークレット・スピード!の橋本充巧、JPMレーシングチームの梶原祥一の3人だ。ポイ

ントも僅差で2~4位につけるこの3人が、加藤にどう挑むか、非常に楽しみだ。

7月19~21日に迫るNK4耐は、鈴鹿NK4を戦うライダーすべてが最大の目標にする天王山だ。そして今大会を制することが、NK4耐制覇へ重要なステップとなる。

勝負をより面白くする!? ウェイトハンディ制

4輪レースのGTやJTCCで見られるウェイトハンディ制が鈴鹿NK4にも採用されている。このルール、決勝レースで上位3位以内に入ると、次のレースから定められたウェイトをマシンに積載しなければならない、というもの。ウェイトは優勝7kg、2位5kg、3位3kgで、上限15kgまで加算されていくが、続けて2レースで3位以内に入れば、ハンディウエイトは0になる。これは、上位入賞のマシンにハンディを課すことで、イコールコンディションに近づけ、レースをより面白くしようという狙いがある。ウェイト積載には各チーム積載位置などノウハウを持ち工夫を凝らしている。ウェイトを積むマシンには、タンクに積載ウェイトのステッカーが貼ってあるので、機会があればチェックしてみよう。ちなみに今大会出場ライダーのハンディウエイトは、ポイントランキング表の右端の欄参照。



白地に赤字のゼッケンが、ウェイト積載の目印。

NK4マシンの買取規定とは？

鈴鹿NK4には、レースで6位以内に入賞した場合、そのマシンの購入を希望する人がいれば120万円以内で販売しなければならない、というユニークなレギュレーションがある。エンジンこそノーマルのままだが、それ以外の部分で改造範囲が比較的広いNK4では、マシンに際限なくお金をかければ勝てるマシンを作ることは簡単だ。しかし、このルールがある限り、もし優勝できても、そのマシンが120万円で購入取られてしまったらたまらない。というわけで、おのずと改造の上限も定まり、結果的にランキングコストの高騰を抑えているのだ。

'96 NK4-II SUZUKA ポイントランキング

順位	ライダー	マシン	チーム	ポイント 合計	西コース 1/7	西コース 2/25	フルコース 4/14	ハンディ ウエイト
1	加藤 潤一	H-CB400SF	モリワキクラブ	54	17	20	17	15kg
2	酒井 靖夫	H-CB-1	F.C.C.TEAM マヨネーズ	45	20	17	8	12kg
3	橋本 充巧	H-CB400SF	シークレット・スピード!	43	13	15	15	8kg
4	梶原 祥一	H-CB400SF	JPMレーシングチーム	41	15	13	13	-
5	井野口亮一	H-CB400SF	Team BATTLEI	22	-	11	11	-
6	赤倉 裕幸	H-CB400SF	レーシングチーム ハニービー	20	-	-	20	7kg
8	出口 修	H-CB400SF	-	20	9	4	7	-
9	丸山 克典	S-GSX400インパルス	VEGA SPORTS	16	8	8	-	-
8	箱崎 太輔	H-CB400SF	ヘッドハンターレーシングクラブ	15	-	6	9	-
10	家入 稔	H-CB-1	YOU 西明石チーム zero95	14	10	-	4	-



飯野みのり



石川美津穂



梅北由美



大石優子



大賀聡子



加藤友美

Queen Contest

はじめまして！ 私たち'96鈴鹿サーキットクイーンです。

1年間がんばりますのでよろしくお願いいたします。



●準グランプリ

●グランプリ



斎藤奈々



鈴木万美子



安田香織



村松加王里



大工原忍



和嶋聡子

●**いいのみのり** 皆さんこんにちわ。見かけがシャープなのでキツク見られがちの私ですが、趣味、人を笑わすこと。特技、物まね等、はっきりいって三枚目です。「今」をがんばって生きている人が大好きなので自分自身も前向きにがんばります。

●**いしかわみずほ** これから一年間、鈴鹿サーキットクイーンとして皆様をお迎えできることを、とてもうれしく思います。真近でレースを応援できるうえ、遊園地等の施設では、お子さんから大人まで、本当に多くの人と接することができます。今からとても楽しみです。

●**うめきたゆみ** 皆さんはじめまして。私はレースを生で見るのは初体験なので、今からとても楽しみでドキドキしています。これから皆さんと一緒に、鈴鹿サーキットを盛りあげていきたいと思っています。

●**おおいしゆうこ** あこがれの鈴鹿で、このようなお仕事ができることは、私にとって最高の幸せです。1年間、持ち前の明るさと元気のよさで、誰にでも親しまれる鈴鹿サーキットクイーンを目指してがんばります。是非、鈴鹿に会いに来てくださいな。

●**おおがさとこ** 私は、このようなお仕事は初めてで、まだ勉強中なのですが、もち前の明るさと笑顔で鈴鹿サーキットを盛り上げて行きたいと思います。そして、一年たったあと皆に「かわったね。私らしくなったね。」と言われたいです。

●**かとうともみ** 初めまして、加藤友美です。やっと桜が見頃になった仙台より参りました。私はレースに、ただ観るだけではなく、参加してみたいと思い、鈴鹿サーキットクイーンに応募しました。皆さん、応援してくださいね。

●**さいとうなな** 私はバイオリンが得意なおっとりした女の子です。女優になるのが夢です。今は東京に住んでますが実家は大阪、標準語と大阪弁が相手によって変わるけど、二重人格などと思わないでくださいな。

●**すすきまみこ** 私のモットーは“他人と自分を比べないで自分らしくある事”ですが、この1年鈴鹿サーキットクイーンとして、いろんな人と出会い、たくさんの事を学び、自分自身のプラスにしていきたいと思っています。鈴鹿で思い出を作りまーす!!

●**やすだかおり** 私は、鈴鹿サーキットクイーンとして一年間、各レースやイベント等に参加するにあたって、小さな子供から大人まで、皆に親しまれ愛されるクイーンになりたいです。又どんな時も笑顔を忘れず、明るさと元気でがんばりますのでよろしくお願いいたします。

●**むらまつかおり** 私は鈴鹿サーキットクイーンに選ばれたことをとても誇りに思います。1年間の活動を通じ、いろいろなことを学んでいけると思うので、それらを貧欲に吸収してより一層自分を磨き中身も外見も魅力的な女性になりたいと思います。

●**だいくはらしのぶ** がんばる人が好き。あきらめない人が好き。だから、鈴鹿サーキットクイーンになったからには最後まで責任持って仕事をしたい。人と接することが好き。人と接する事で自分を高め磨きたい。このふたつを目標に、皆に笑顔で幸せを与えられる人になりたい。

●**わじまさこ** 鈴鹿サーキットクイーンに選ばれたことをとてもうれしく思います。鈴鹿サーキットへいらっしやるお客様に、「また来たい」と思っていただけのように、心からの笑顔でお迎えしたいと思います。

燃えるゾ、僕らの夏祭り!

8耐ウイークは

10日間の

パラダイス!

ダンジョン

Coca-Cola



'96 "コカ・コーラ"
鈴鹿8時間耐久
ロードレース
7/19 (FRI)
~28 (SUN)

今年もあの“夏”がやって来る
トップライダーの激しいバトルに
楽しいイベントが盛りだくさん
思わずソワソワ、ワクワク
8耐が僕らを待っている!

8時間に渡る激戦。何と云ってもレースがアツイ!

トップライダーが繰り広げる 白熱のバトルロイヤル

バイク好きのみならず、すべてのレース・ファンが注目する“コカ・コーラ”鈴鹿8耐は、今年で19回目の開催。8時間後の栄光を目指し、国内トップライダーや世界の耐久スペシャリストたちが繰り広げるドラマが、常に見る者を魅了してきたレースだ。彼らは各メーカーの威信を背負っているだけに、プライドの火花が散る激しいバトルは必至。昨年はホンダを駆るアロン・スライト & 岡田忠之のペアが優勝し、5年振りに日本人ライダーが表彰台の頂点に立った。昨今の日本人ライダーの活躍からして、今年こそ日本人ペアによる優勝への期待も高まるとういもの。記念すべき年になる可能性も高いために、いつもにも増して見逃せない一戦となりそうだ!



A.スライトの3連勝達成と岡田忠之の優勝に沸いた昨年の表彰台。

日程	"コカ・コーラ"鈴鹿8耐	SP4耐	鈴鹿ネイキッドフェスティバル
7月19日(金)		公式予選	NK4耐練習走行
20日(土)		公式予選・敗者復活戦	NK4耐公式予選・敗者復活戦
21日(日)			SUPER NAKED 決勝 NK4耐決勝 15:00スタート/19:00ゴール
22日(月)			
23日(火)	練習走行		
24日(水)	練習走行		
25日(木)	練習走行		
26日(金)	計時予選(公式予選)		
27日(土)	スペシャルステージ(公式予選) 8耐前夜祭	鈴鹿SP4耐決勝	
28日(日)	"コカ・コーラ" 鈴鹿8耐決勝 11:30スタート/19:30ゴール		

*スケジュールは変更になる場合があります。

8耐の予選・決勝日にはビットワークも開催される。マシンやキャンギャルを撮影するチャンスだ。



ポール争い白熱! S.S.から目を離せない

8耐は予選も思いっきりスリリング。まず金曜日の計時予選の後、上位30台が土曜日のスペシャル・ステージ(S.S.)にチャレンジする。これはライダーがひとりずつクリアラップでたった1周のタイムアタックを行うというもの。ひとつのミスが順位に大きく響くため、ライダーの気合いがビンビン伝わってくる。各ライダーの攻撃はサーキットビジョンで映し出され、まさに臨場感たっぷり。ワンチャンスに賭けるライダーのライディングを堪能できる。



耐久レースはチームの総力戦。ベストを尽くして結果を祈る。

ネイキッドフリークは集合! "ネイキッドフェスティバル"

8耐ウイーク前半のクライマックスとなるのが“鈴鹿ネイキッドフェスティバル”だ。メインはふたつのレース。去年からスタートしたNK4耐に、人気の“SUPER NAKED”(NK4、NK1混走)が加わり、ネイキッドフリークにはたまらない3日間なのだ。またサーキット内にはバイクショップ、各チームやメーカーのブースが大集合。4メーカー合同の会員イベントも加わり、お祭り騒ぎのイベントとなること間違いなし!



ヤングライダー達の激戦区。スーパーキーは生まれるか?

"ロードレースの甲子園" SP4耐が8耐決勝前日に

次代のヒーローを見つけたかったら、SP4耐だけは見逃しちゃいけない。ロードレースの甲子園とも登竜門とも言われるSP4耐だけに、ここで勝ったラ



中間タイムやトップとの差もバッテリー表示で迫力倍増!

イダーが数年後に全日本や世界GPへ羽ばたく可能性は大なのだ。過去の優勝者にも青木治親、藤原克昭をはじめとするトップライダーが居並んでいる。しかも今年からこのSP4耐が今までの8耐前週から決勝前日に復活! まずはレースウイークの密度が濃くなり、見どころ満載となるのだ。

ますます盛り上がるネイキッドバイクシーン。



8耐ウィークはイベントパラダイス!

サーキット丸ごとイベントスペース 思う存分楽しむべし

お祭りムードいっぱいの8耐はイベントの多さが自慢。サーキット園内は各種イベントスペース、ブースで賑わう。目玉のひとつは、毎年応援に駆けつ

けてくれるウルトラマン軍団。ライブや怪獣とのアクションショーなどで皆を楽しませてくれる。コース上では、メカニックの妙技が見られる“KTCCピットワークコンテスト”や、かつての名車達によるロマン薫る“ルーツ・ザ・レース・イン・スズカ”、そして国際レーシングコース体験走行もあるぞ!



コンビネーションの良さに思わず拍手。



自慢の愛車でコースを体験走行できる!



ウルトラマン軍団が今年も鈴鹿に出現。サーキットの平和を守るべく神出鬼没。

僕らの交流スペース “ライダーズフェスタBike3”

例年、バイクフリークに大好評なのが“ライダーズフェスタBike3(バイク・バイク・バイク)”。ここはバイク好きなら誰もが主役の交流スペースだ。個性豊かなカスタムマシンのコンテスト「俺たちのバイクを見ておくれコーナー」を始め、イベントステージやPRブースなど見どころたっぷり。さらにフリーマーケットも開催されるから、掘り出し物を探すもよし、バイク好き同士の交流を深めるもよし。とにかく参加した者勝ちのイベントスペースだ!



キメたマシンがあれば、こんなユニークな出展も...

たかぶる気持ちをここで発散! 8耐前夜祭

8耐の決勝前夜は恒例の“8耐前夜祭”で盛り上がる。8耐ではおなじみの顔や多彩なゲストが登場、トークショーやライブ等を繰り広げる。しかも舞台はまもなく決戦の場となる国際レーシングコースだから、いやが上にも気分はハイテンション!“夏祭り”8耐にどっぴりハマれるイベントだ。



暑い夏の日も、みんな盛りに上れば楽しさ倍増だ!

ゆったりのおんびり安心の “快適度向上計画”!

今年からオートキャンプフィールドがオープンし、アウトドアライフはますます充実(7/24~28は当日受付のみ)。また大人気の天然温泉“クア・ガーデン”が26日(金)・27日(土)とオールナイト営業を実施。さらに荷物預かり所の開設や、日陰テントの設置など、快適サーキットを目指します!



鈴鹿に腰を落つけてじっくり観戦。これぞ優雅なサーキットライフ。

8耐&4耐 前売り観戦券&指定席券好評発売中!

観戦券(税込み)

券種	有効観戦日	大人	中・高校生	
前売り観戦券	4日間通し券	7/25~28	7,000円	3,500円
	10日間通し券	7/19~28	8,000円	4,000円
当日売り観戦券	決勝1日券	7/28	10,000円	5,000円
	予選1日券	7/26	3,000円	遊園地料金

※3歳~小学生の方は遊園地入園料800円(税込み)ご観戦いただけます。

指定席券(7/27・28有効/税込み)

■S1席.....10,000円	■S2席.....8,000円	■A席.....6,000円
■B1席.....4,000円	■B2席.....5,000円	■C席.....5,000円
■D席.....5,000円	■E席.....8,000円	■F席.....5,000円

※S1席、S2席、A席、E席のチケットでF席にも入場いただけます。ただしF席での座席の指定はございません。
※指定券は3歳以上の方から必要となります。

国際レーシングコースを体験走行しよう!
全国主要二輪車販売店で走行チケット発売中

開催日:7月27日(土)・周回数2周/お一人様1,200円(税込み)

※体験走行チケットは二輪車販売店で、8耐チケットと同時に買い求めください。

チケットのお求めは

- 主要二輪車販売店
- チケットセゾン 名古屋052-290-0200・大阪06-232-9999・東京03-5990-9999
- チケットぴあ 名古屋052-320-9999・大阪06-363-9999・東京03-5237-9999
- 丸井チケットぴあ 03-5385-9999
- CNプレイガイド 03-5802-9999 ●関西プレイガイド協会 06-456-2555
- ローソンチケット、ダイエー(OMC店)06-369-6633
- ファミリーマート(電話予約はチケットセゾン)
- am/pm、MINI STOP 03-5802-9999
- JR東海旅行センター、JR東海ツアーズ
- ヤマト宅急便チケットセンター052-303-1813またはFAX052-303-6203でチケットが届きます(送料別途)
- ミリオンチケットセンター(ミリオンカード会員専用)
名古屋052-243-6507・大阪06-231-2370・東京03-3265-7194
- 鈴鹿サーキットチケットセンター
- ★ホンダ ウェルカムプラザ青山 ★MFJ ★JAF
- ★旅行代理店(JTB、近畿日本ツーリスト、東急観光、日本旅行、名鉄観光)
- ★全国主要プレイガイド ★鈴鹿サーキット各営業所
- ※★印は観戦券のみのお取り扱いとなります。

レースチケットについてのお問い合わせは、鈴鹿サーキットチケットセンター ☎0593-78-1111(代)

INTERNATIONAL RACING COURSE COURSE GUIDE

鈴鹿サーキット・国際レーシングコース/データ

完成 : 1982年9月

コース長 : 5.86403km

コース幅 : 10m~12m

コーナー数 : 20

メインストレート : 800m

バックストレート : 1200m

入口 Gate

歩道 Passage

救護所 Emergency Medical Center

案内所 Information Center

トイレ Toilet

サーキットビジョン Circuit Vision

記念品コーナー Souvenir Corner

軽食 Snack

売店 Store

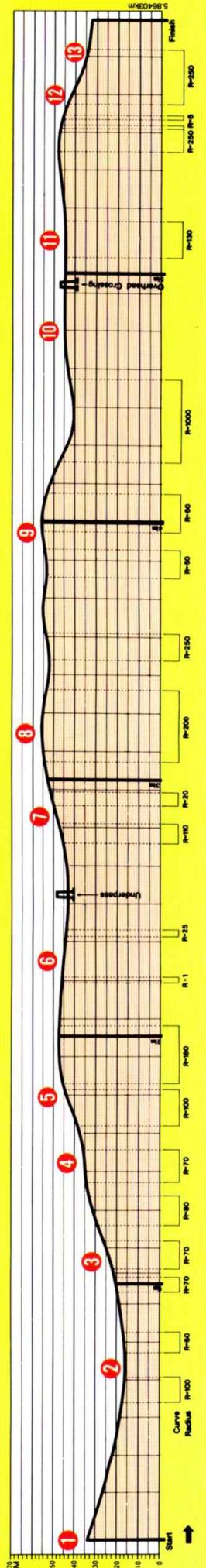
荷物預かり所 Lock Room

自由席 General Admission Area

エリア指定席 Reserved Seat



ELEVATION



デグナーカーブ

番号はコース図と高低差を表すエレベーションに記してある観戦ポイントの説明です。

<p>① グランドスタンド Grandstand レースの流れが一番分かりやすいのがグランドスタンド。スタートやゴールはもちろんだ、大型のカラーモニター、サーキットビジョンや順位を表示するリーダーボードがあり、レースの展開がわかりやすい。目の前で行われるピット作業の他、ストレートでの抜き合いも楽しめる。</p>	<p>② 1～2コーナー 1st & 2nd Corner 第1コーナーは鈴鹿サーキット一番の追い抜きポイント。下りのストレートから、スリップストリームを使って第1コーナーへの飛び込みで追い越していく。そのギリギリまで遅らせるブレーキ競争が勝負のポイントになる。また、スタート直後のトップ争いは大迫力だ。</p>	<p>③ S字コーナー S-Curve その名の通りS字の形をしたコーナー。左、右、左と連続するテクニカルなコーナーのため、リズムカルなマシンの挙動が楽しめる。ここをうまく走れるかどうかでタイムに大きく影響するため、ライダーのテクニックとマシンのセッティングを見るにはもってこいの場所。</p>	<p>④ 逆バンク Anti-Banked Curve サーキットのコーナーには、普通すり鉢状のカントと呼ばれる傾斜がついている。だが、ここではその傾斜がほとんどついていないため、ライダーが逆バンクに傾斜しているように見えるのでこの名がある。ライダーにとってはシビアなコーナーリングが要求される。</p>	<p>⑤ ダンロップコーナー Dunlop Corner コースの中で最も上り勾配のきつい地点。その上高速コーナーのため、ライダーにはかなりの横Gがかかるハードなコーナー。マシンが小刻みにドリフトする様子が分かるかもしれない。マシンが駆け上っていきの様子に迫力がある。</p>	<p>⑥ デグナーカーブ Degner Curve 64年、このコーナーでE.デグナーというGPライダーが転倒したことからこの名がついた。ふたつのコーナーからなる複合コーナーで、加速してきたマシンが減速し、S字と同じようにうまくリズムミカールにクリアできるかがポイントとなる。</p>																														
<p>⑦ ヘアピンカーブ Hairpin Curve 名前はもちろん形がヘアピンに似ていることから。デグナーカーブを抜け、加速したマシンが一気に減速するタイトなコーナーで、ここを回るとまたマシンは加速していく。減速、コーナーリング、立ち上がり、マシンの挙動をじっくり楽しめる。</p>	<p>⑧ 200R ヘアピンを抜けたマシンが徐々に加速していくからか、高速スピードコーナー。もちろんライダーはアクセル全開だ。ヘアピンで1速に落ちたマシンが次のスプーンカーブに向けてシフトアップしていく様子がよく分かる。</p>	<p>⑨ スプーンカーブ Spoon Curve 名前の由来はやはりその形状がスプーンに似ているところから。ここも大きく分けてふたつのコーナーからなるテクニカルなコーナー。ひとつ目はかなり高いスピードで入るが、ふたつ目は車速が落ちる。ここを速く脱出することが次のバックストレートでの伸びにつながる。</p>	<p>⑩ 西ストレート Back Stretch バックストレートと呼ばれる西ストレートは鈴鹿サーキットで最もスピードの速い地点。グランドスタンド前のメインストレートと並んでマシンのパワー差やスリップストリームの差を使った攻防が見られる。</p>	<p>⑪ 130R 最高速の出る西ストレートからわずかに減速して飛び込む、ライダーにとっても、見る側にとっても迫力十分の高速コーナー。マシンコントロールの様子も見るのができる。また130R手前がマシンの追い越しポイントにもなっている。</p>	<p>⑫ カシオトライアングル CASIO Triangle いわゆるシケインと呼ばれるのがここ。130Rからは下りのラインとなる。高速コーナー130Rを抜けてのブレーキング競争による追い越しポイントのひとつであり、通過速度は全コースを通じて最も低い。撮影にもおすすめのポイント。</p>																														
<p>⑬ 最終コーナー Last Corner 下りの長いコーナーで、ストレートや第1コーナーでの追い越しのために重要なポイント。ここでの立ち上がりがよくないとメインストレートでの加速に影響し、ひいてはラップタイムにも大きく影響してくる。</p>	<p>コースレコード</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>CLASS</th> <th>TIME (km/h)</th> <th>RIDER</th> <th>MACHINE</th> <th>DATE</th> <th>RACE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スーパーバイク</td> <td>2'10"278 (162.042)</td> <td>藤原 亮昭</td> <td>カワサキ ZX-R750R</td> <td>95. 11. 11</td> <td>鈴鹿スーパーバイク100miles</td> </tr> <tr> <td>GP250</td> <td>2'10"655 (161.574)</td> <td>加藤大治郎</td> <td>ホンダ NSR250R</td> <td>95. 6. 10</td> <td>鈴鹿スーパーバイク200km</td> </tr> <tr> <td>GP125</td> <td>2'17"156 (153.914)</td> <td>東 雅雄</td> <td>ホンダ RS125R</td> <td>95. 9. 10</td> <td>鈴鹿スーパーバイク2ヒートレース</td> </tr> <tr> <td>NK4-II</td> <td>2'24"529 (146.064)</td> <td>赤倉 裕幸</td> <td>ホンダ CB400SF</td> <td>96. 4. 13</td> <td>鈴鹿サンデーロードレース第5戦</td> </tr> </tbody> </table>					CLASS	TIME (km/h)	RIDER	MACHINE	DATE	RACE	スーパーバイク	2'10"278 (162.042)	藤原 亮昭	カワサキ ZX-R750R	95. 11. 11	鈴鹿スーパーバイク100miles	GP250	2'10"655 (161.574)	加藤大治郎	ホンダ NSR250R	95. 6. 10	鈴鹿スーパーバイク200km	GP125	2'17"156 (153.914)	東 雅雄	ホンダ RS125R	95. 9. 10	鈴鹿スーパーバイク2ヒートレース	NK4-II	2'24"529 (146.064)	赤倉 裕幸	ホンダ CB400SF	96. 4. 13	鈴鹿サンデーロードレース第5戦
CLASS	TIME (km/h)	RIDER	MACHINE	DATE	RACE																														
スーパーバイク	2'10"278 (162.042)	藤原 亮昭	カワサキ ZX-R750R	95. 11. 11	鈴鹿スーパーバイク100miles																														
GP250	2'10"655 (161.574)	加藤大治郎	ホンダ NSR250R	95. 6. 10	鈴鹿スーパーバイク200km																														
GP125	2'17"156 (153.914)	東 雅雄	ホンダ RS125R	95. 9. 10	鈴鹿スーパーバイク2ヒートレース																														
NK4-II	2'24"529 (146.064)	赤倉 裕幸	ホンダ CB400SF	96. 4. 13	鈴鹿サンデーロードレース第5戦																														

① The color monitor, a circuit vision, and a leader board allow those in the Grandstand to easily follow the unfolding of the race. ② The First and Second Corners are typical passing points at Suzuka Circuit. Riders display their techniques of braking into and accelerating out of the corners. ③ The S-curve provides riders with a left-right-left series of curve. ④ This corner has practically no cant. To riders, it looks as if the surface cuts the other way. A precise cornering technique is essential. ⑤ At the Dunlop corner, riders experience strong lateral G forces, and their machines may undergo drifting. ⑥ The two-curved Degner Curve requires a rhythmical handling technique from the riders. ⑦ At the Hairpin Curve one can enjoy the entire behavior of the machine from the entering of the corner to the accelerated leaving of it. ⑧ At 200R, a gentle high speed curve, riders accelerate their engines all the way by shifting up and opening up to full throttle. ⑨ A rapid escape from the second curve of the two-curved Spoon Curve may be the key to success at the following back-stretch. ⑩ The backstretch is the place for a rider to mark his fastest speed. ⑪ The 130R is a typical fast-speed corner. It is also one of the passing points at Suzuka. ⑫ The Casio Triangle is also a typical passing point. ⑬ The last corner, inclined downward, signifies a long and important passing point before heading into the straight and first corner. If taken poorly, it will hamper acceleration on the main straight and lap times. An ideal place to compare acceleration performance.

鈴鹿サーキット ラップタイム&平均速度

コース距離×3600 = 平均時速
ラップタイム(秒)

Time	Speed(km/h)
1分30秒	234.561
1' 31"	231.983
1' 32"	229.462
1' 33"	226.994
1' 34"	224.579
1' 35"	222.215
1' 36"	219.901
1' 37"	217.634
1' 38"	215.541
1' 39"	213.237
2' 40"	140.736
2' 41"	138.604
2' 42"	136.984
2' 43"	135.977
2' 44"	135.081
2' 45"	134.196
2' 46"	133.323
2' 47"	132.461
2' 48"	131.610
2' 49"	130.774
2' 50"	130.940
2' 51"	131.121
2' 52"	130.311
2' 53"	129.512
2' 54"	128.722
2' 55"	127.942
2' 56"	127.171
2' 57"	126.410
2' 58"	125.657
2' 59"	124.914
3' 00"	124.181
3' 01"	123.458
3' 02"	122.735
3' 03"	122.026
3' 04"	121.324
3' 05"	120.631
3' 06"	119.946
3' 07"	119.268
3' 08"	118.598
3' 09"	117.935

RIDING SPORT

RIDERS' SPIRIT FROM
MOTORCYCLE SCENES SINCE 1982



ロバーツさんも 熟読中!?

96年8月号
6月24日(月)発売

定価580円(税込み)

ライディングスポーツは毎月24日発売

NEWS PUBLISHING CO., INC.
株式会社 ニュース出版

〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7

広告TEL.03-5430-4441、販売TEL.03-5430-4440/FAX.03-5430-4455

ランキング上でもトップ争いに絡んできたノリックの快進撃
そして岡田+500Vや原田をはじめとする日本人選手たちの
巻き返しはいかに。中盤戦へと突入してきた第5戦イタリアGP
第6戦フランスGPの様子を飛行機や電子メールを駆使して詳細報告
また、8耐前哨戦でもあるこの鈴鹿200kmのレポートはもちろん
5月下旬に行われた8耐4メーカー合同テストの結果も合わせて掲載
夏一色に染まった(!?)ライディングスポーツ8月号は6月24日に発売!

※企画は一部変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください

なんと



1等
現金

一千万円だ!!

2等

百万円プレゼント

(税込)

(税込)



クイズに答えて
当てる!



バーコードを送って
当てる!

毎月各コース500名様、総計3,000名様に

永谷園 オリジナルおしゃれグッズプレゼント

応募方法 永谷園商品のバーコードどれでも2枚を切りとり、官製ハガキ又は応募ハガキに貼った上、住所・氏名・年齢・職業・電話番号・郵便番号とご希望のコース名〔Aコース：ヒロココシノ・オリジナルポーチ Bコース：天然パール・オリジナルネックレスのいずれか1コース〕を明記してご応募下さい。お一人様何口でも応募できます。

対象商品 永谷園商品の中で、進物品・キャラクター商品を除く全商品
プレゼント期間 平成8年4月1日～6月30日(平成8年6月30日消印有効)

対象地区 全国
宛先 〒119-93 東京都港区芝郵便局私書箱207号

抽選方法 毎月末日到着分までの応募ハガキの中から厳正な抽選の上、毎月1,000名様(各コース500名様)、期間中3,000名様に「オリジナル・おしゃれグッズ」をプレゼントします。
当選者発表 景品の発送をもって、発表にかえさせていただきます。



ヒロココシノ・オリジナルポーチ



天然パール・オリジナルネックレス

対象商品 永谷園全商品 (ギフト、キャラクター商品を除く)



クイズ

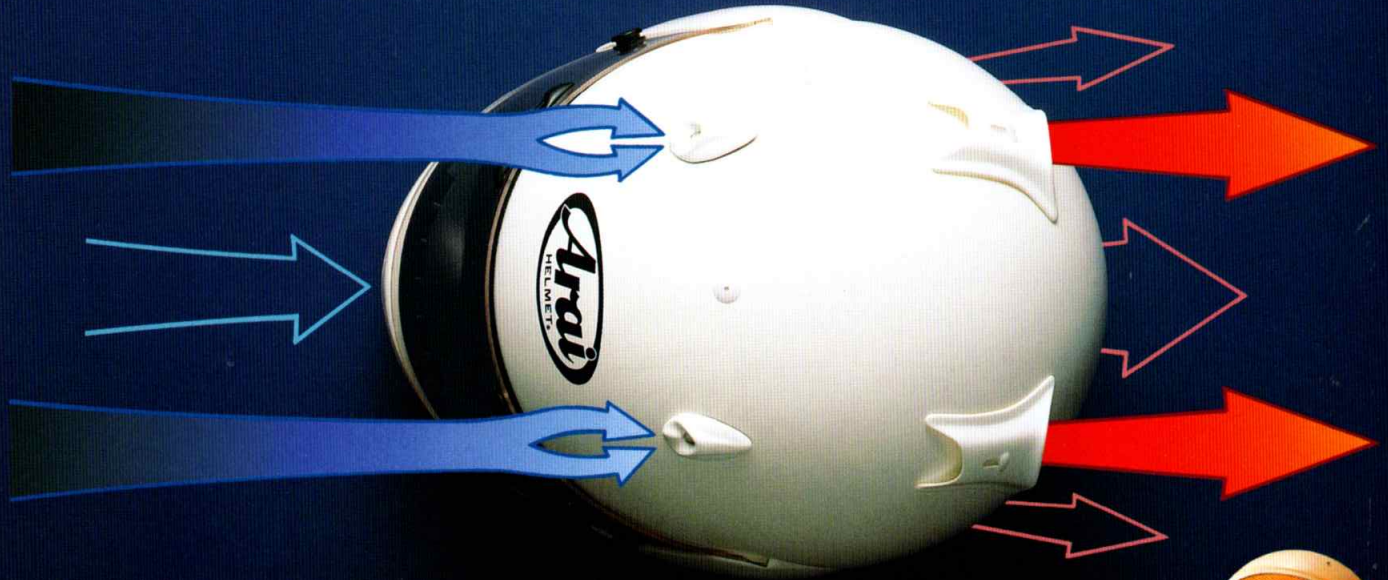
毎月1名様、総計3名様に
1000万円が当たる!!

「〇ひとすじ」の永谷園です。
ヒント：永谷園は、味ひとすじ
おいしさを追求しています。

応募方法 官製ハガキにクイズの答え(〇にあたる漢字一文字を入れて下さい)を書いて、住所・氏名・年齢・職業・電話番号・郵便番号を明記の上、ご応募下さい。
※永谷園の社員およびその家族は応募できません。
プレゼント期間 平成8年4月1日～6月30日(平成8年6月30日消印有効)
宛先 〒119-93 東京都港区芝郵便局私書箱207号
永谷園「なんと現金一千万円だ」プレゼント係
抽選方法 毎月末日到着分までの応募ハガキの中から厳正な抽選の上、毎月1名様、3ヶ月合計3名様に現金1,000万円を、毎月3名様、3ヶ月合計9名様に現金100万円をプレゼントいたします。
当選者発表 当選者への連絡をもって発表にかえさせていただきます。
※当選賞金は応募者ご本人のみお受け取りいただけます。
※当選賞金は税込みとなっておりますので、当選者ご本人の確定申告が必要となります。

28%UP×2:数値が語る、 勝つためのレーシング・スペック。

Arai
HELMET
Racing Specialties



ラバイド……それは、勝利のために生まれた。
1984年の登場以来、勝つためのギヤとして性能を磨きつけて来た。
そして、12年目、ラバイドは、スーパーcLcの骨格を持つ、レーシング・スペックを
フル装備した「V」のエンブレムをつけて
サーキットに登場する。



冷却効率をさらにアップした ベンチレーション・システム。

吸気を受け持つVフローダクトは、フォーミュラダクトをさらにブラッシュアップ。吸入孔と前後に突起と壁をバランス良く配置することにより、流入するエア量を増加させるNATS(Negative Air Trapping System)を新開発した。また、排気を受け持つRAMエアダクトでは、ヘルメット表面を流れる気流を積極的に利用するため、新フォルムに変更。空気抵抗が少なく、風きり音を抑えた設計に加え、広範囲な方向性をも獲得している。たびかさなるテストで磨きあげたベンチレーションシステムで得られた結果は、さらなる冷却効率の向上。その冷却性能は、フォーミュラダクトとの比較においても、冷却効率を決定するヘルメット内部の風量を見ると、Vフローダクトでは約29%アップ。RAMエアダクトでは、約28%もアップしている。好みやシーズンにあわせたセッティングが可能とするため、フロントのVフローインテーク、リアのRAMエアダクトとも、3段階で流量調整ができる。また、Vフローダクト、RAMエアダクトとも、エアロダイナミクス技術を駆使し、ヘルメット内に効率の良いエアの流れを生み出すとともに、外部気流による空気抵抗を抑えるフォルムを得ている。



強く、軽く、レーシング仕様の スーパーcLc帽体を採用。

レーシング用ヘルメットに求められる強靱さと軽さ、そしてフィット感。この相反する要素をクリアした帽体がスーパーcLcだ。その製造工程は、F1レーサーの65%が愛用しているヘルメットと同一。もちろん、素材、基本構造なども「人を守るためのヘルメットには、特別仕様などない」というアライの姿勢のもと、同一のものが使われている。万一の時にもライダーを守る強靱さを確保する…。そしてGの影響を抑える軽さとフィット感を提供する…。ラバイドVは、アライの技術の頂点ともいえるスーパーcLc帽体を得て、さらにバトルを熱くする。

ティアオフシールド対応 スーパーアドシールドポスト付 デミストシールドを装備。

オイルや虫の付着から視界を守るティアオフシールドが簡単に装着できるスーパーアドシールドポスト付を装備。また、シールド内部の高い曇り止め効果を発揮しながらも、キズつきにくいデミストシールドを採用。ベンチレーションシステムによる曇り除去効果とあわせて、クリアな視界を確保します。



■ラバイドV専用フルシステム内装

■ニューマウスリット

■スーパーアドシールドポスト付デミストシールド

■デミストロック

■サイドアウトレット

■ノーズデフレクター

■オプション
スーパーアドシールドポスト付デミストシールドクリア/スモーク¥4,500

■オプション
ティアオフシールド5枚1組 ¥900

RAPIDE V

- 機種名: ラバイドV
- 帽体: Super cLc(スーパー・コンプレックス・ラミネート・コンストラクション)
- 規格: スネル1995 JIS C種
- 内装: ラバイドV専用フルシステム内装(頬パッド調整可能-特許出願中)
- シールド: スーパーアドシールドポスト付デミストシールド標準装備(特許出願中)
- 色: 白、黒 ●サイズ: (53-54) (55-56) (57-58) (59-60) (61-62)

●アライ製品については、品質管理課までお問い合わせください。直通TEL(048)645-3661

株式会社アライヘルメット 〒330 埼玉県大宮市東町2-12 TEL(048)641-3825-7



¥38,000

(消費税は含まれません。)

DUNLOP
DRIVING TO THE FUTURE

オレは、ダンロップ。

GRANDPRIX RIDER
KAZUTO SAKATA

なんたって究極は、グリップだ。
レーシングライダーにとって、
実戦ではマシンよりタイヤがキメ手になる。
とくにグリップが足りないタイヤはまったくダメだね。
コントロール性は、グリップの次に語られるもの。
横にスライドしても前へ前へと進んでいく。
そして、コーナーをしっかりと立ち上がっていく。
ライダーにヤル気を起こさせるタイヤでなければならない。
いわば勝利のエモーションの原動力。
それがグリップだと思う。だから、オレはダンロップ!

Rideen
GPR-50 SP

TT900GP



ダンロップは
安全めざしタイヤ!